



Backup

ユーザーガイド

バージョン R91

日本語

June 10, 2015

Agreement

The purchase and use of all Software and Services is subject to the Agreement as defined in Kaseya's "Click-Accept" EULATOS as updated from time to time by Kaseya at <http://www.kaseya.com/legal.aspx>. If Customer does not agree with the Agreement, please do not install, use or purchase any Software and Services from Kaseya as continued use of the Software or Services indicates Customer's acceptance of the Agreement."

目次

バックアップ概略.....	1
他のバックアップ製品のアニインストール.....	3
ボリュームバックアップ対フォルダバックアップ.....	4
パーティションのバックアップ.....	4
フルバックアップ、増分、差分バックアップ.....	4
バックアップの確認.....	5
ダイナミックディスク.....	5
バックアップフォルダ構造.....	6
Kaseya Server のバックアップ.....	6
Kaseya Backup Local UI.....	7
Offsite Replication.....	7
合成フルバックアップ.....	10
非表示のプリファレンス.....	11
Backup モジュールの要件.....	12
バックアップステータス.....	12
スケジュールのボリューム.....	13
事前/事後手順：バックアップ.....	16
スケジュールのフォルダ.....	18
バックアップセット.....	21
バックアップログ.....	22
ボリュームの検索.....	22
フォルダの検索.....	23
イメージの確認.....	24
イメージから VM.....	25
自動リカバリ.....	26
不良を復元.....	28
CD リカバリ.....	29
Universal Restore.....	30
Offsite サーバー.....	31
ローカルサーバー.....	33
Offsite 警報.....	36
転送をスケジュールする.....	39
インストール/削除：バックアップ.....	40
イメージの場所.....	44
イメージのパスワード.....	46
フォルダバックアップ.....	48

バックアップ警報.....	49
圧縮.....	53
最大ファイルサイズ	55
最大ログエージ	56
安全なゾーン	57
インデックス	61

バックアップ概略

バックアップ

Backup (KBU) は、Windows サーバーおよびワークステーション用にリアルタイムの自動ディスクバックアップ、ディスクイメージング、ファイルレベルのバックアップ、およびベアメタルの復元リストアの機能を装備しています。

自動化、優れたパフォーマンス、使いやすさとセキュリティが、**Backup** の基本的な機能です。従来のファイルベースのバックアップ製品とは異なり、**Backup** はオペレーティングシステム、ユーザー設定、アプリケーションやデータなど、システム全体の状態のイメージを作成します。バックアッププロセスにはシステムのダウンタイムが必要ではないので、アプリケーションやサーバーはいつでも利用可能です。

バックアップが作成されると、**Offsite Replication** 『7 ページ』によって、即座にイメージおよびフォルダのバックアップが自動的に転送され、業務で使用されている場所から隔離して安全に保存されます。このプロセスは完全に自動化されており、担当者がテープなどのバックアップ用メディアを用意したり、保管の場所でホームやドロッグを覚えておく必要はありません。

Backup を使用すると、データを迅速かつ簡単に復元できます。数ファイルを復元するだけの単純なニーズから、クラッシュしたシステムの復元、または障害発生時のベアメタルからのシステム復旧を問わず、**Backup** は IT 管理サービスプロバイダーや IT ユーザーに、最も総合的で信頼性とコスト効率の高いサーバーおよびワークステーションの保護を提供します。

完全に自動化されたリアルタイムバックアップ

- ユーザーの介入は不要
- システムのダウンタイムは不要
- フルおよび増分のイメージをスケジュール
- フォルダおよびファイルのバックアップをスケジュール
- すべてのプロセスが自動化され、スケジュールされている時点で起動します。

完全なディスクイメージング

- セクターレベルのバックアップ
- 複数パーティション
- フルイメージと増分イメージがきめ細かい復元ポイントを提供し、オフサイトへのレプリケーションでのファイル転送のサイズを減少させます。
- すべてのプログラム、設定、構成、システムおよびユーザーデータの完全なデータ保護

完全に自動化されたオフサイトレプリケーション

- スケジュールされた時間期間
- ユーザーの介入なしで自動的に起動
- ダウンタイム不要
- テープなど輸送すべきメディアなし
- オフサイトサーバーでの合成バックアップ
- フォルダとファイルの合成暗号化バックアップをサポートします。

高速で簡単なリカバリ

- リカバリの日付の細かい選択が可能
- ドライブボリュームをリモートでマウント可能
- 完全なシステムイメージの復元
- ドラッグ・アンド・ドロップでできるフォルダやファイルの復元
- ベアメタルイメージの復元
- ダウンタイムの最小化

柔軟な構成と制御

- グローバルな構成、グループ別の構成、OS タイプ別の構成、など。
- サーバー別またはワークステーション別の細かさ
- スケジュールされ、無人化可能なバックアップおよびファイル復元
- リモートおよび自動化された配置
- サーバーまたはワークステーションまたは顧客サイトを物理的に訪問する必要なし
- 追加のハードウェアまたはソフトウェアは不要

注：「システム要件」『<http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9010000/reqs/index.asp#home.htm>』を見て『を参照してください。

機能	説明
バックアップステータス 『12 ページ』	任意のマシンのスケジュールされたバックアップのステータスを表示します。
スケジュールのボリューム 『13 ページ』	管理されるマシンで選択したハードディスクボリュームのバックアップをスケジュールします。
事前/事後手順 『16 ページ』	ボリュームバックアップの前および/または後で実行する手順を指定します。
スケジュールのフォルダ 『18 ページ』	個別のフォルダのバックアップをスケジュールします。
バックアップセット 『21 ページ』	ボリュームおよびフォルダの両方に対して、保存している現在のバックアップセットのリストを表示します。
バックアップログ 『22 ページ』	すべてのバックアップアクションによって生成されたログを表示します。
ボリュームの検索 『22 ページ』	管理されるマシンにバックアップを新しいドライブ文字でマウントします。
フォルダの検索 『23 ページ』	管理されるマシンにフォルダのバックアップをコピーします。
イメージの確認 『24 ページ』	任意のボリュームまたはフォルダのバックアップイメージを確認します。
イメージから VM 『25 ページ』	既存のバックアップファイルを次の3種類の仮想マシンファイルフォーマットのどれかに変換します：仮想 PC、VMware および ESX
自動リカバリ 『26 ページ』	選択したマシンに自動的に復元するボリュームのバックアップイメージを選択します。マシンがブート可能であり、エージェントがサーバーと通信できることが必要です。

CD リカバリ 『29 ページ』	管理されるマシンを CD からブートし、選択したボリュームのバックアップイメージを自動的に復元します。
Universal Restore 『30 ページ』	ブート CD を作成し、ウィザードで進めて手動でバックアップイメージを復元するための指示を提供します。
Offsite サーバー 『31 ページ』	オフサイトサーバーとして機能し、ローカルサーバーからファイルを受信するマシンを指定します。
ローカルサーバー 『33 ページ』	ローカルサーバーとして機能し、他のサーバーへファイルを送信するマシンを指定します。
Offsite 警報 『36 ページ』	ローカルサーバーがオフサイトサーバーへの接続に失敗したときに警報を生成します。
転送をスケジュールする 『39 ページ』	それぞれのサーバーの日単位のスケジュールを設定し、ファイルをオフサイトサーバーへ送ります。
インストール/削除 『40 ページ』	管理されるマシンのバックアップドライブおよびソフトウェアをインストールおよびアンインストールします。
イメージの場所 『44 ページ』	バックアップ保管場所へのパスを設定します。
イメージのパスワード 『46 ページ』	バックアップイメージを保護し、イメージの暗号化を有効にするパスワードをリストアップします。
フォルダバックアップ 『48 ページ』	フォルダのスケジュール中にバックアップするフォルダのリストを指定します。
バックアップ警報 『49 ページ』	バックアップイベントに関する警報を有効化/非有効化します。
圧縮 『53 ページ』	ボリュームおよびフォルダのバックアップで使用する圧縮を設定します。
最大ファイルサイズ 『55 ページ』	バックアップイメージに使用する最大のファイルサイズを設定します。この最大サイズより大きいイメージは複数のファイルに分割されます。
最大ログエージ 『56 ページ』	バックアップログデータを保存する最大日数を設定します。
安全なゾーン 『57 ページ』	保護ゾーンをインストールして、自動リカバリをサポートします。

他のバックアップ製品のアンインストール

管理マシンに他のバックアップ製品がインストールされている場合、**Backup** で問題が発生する可能性があります。**Backup** を使用してボリュームやフォルダをバックアップする前に、他のバックアップ製品をアンインストールします。他のバックアップ製品がインストールされていると、**バックアップステータス** 『12 ページ』 ページに警告メッセージが表示されます。

ボリュームバックアップ対フォルダバックアップ

スケジュールフォルダ 『18 ページ』を使用してバックアップを実行すると、フォルダツリーとともに、データだけが圧縮されて、保存されます。

ディスクとパーティションのバックアップは、異なる方法で実行されます：**スケジュール容量**は、ディスクのセクター単位でのスナップショットを保存し、ユーザーには表示されないシステム領域を含めて、オペレーティングシステム、レジストリー、ソフトウェアアプリケーションおよびデータファイルが含まれます。この手順は**ディスクイメージの作成**と呼ばれ、結果として得られるバックアップアーカイブはしばしばディスク/パーティションイメージと呼ばれます。

ハードディスクのデータを持っている部分だけが保存されます。さらに、スワップファイルの情報はバックアップされません。これによってイメージのサイズを縮小し、イメージの作成や復元のスピードが向上します。

パーティションのバックアップ

個別のドライブ文字(パーティション)毎に、またはディスクドライブ全体をバックアップできます。

パーティションイメージには、属性によらないすべてのファイルやフォルダ(非表示およびシステムファイルを含む)、ブートレコード、FAT(ファイル・アロケーション・テーブル)、マスターブートレコード(MBR)があるハードディスクのルートおよびゼロトラックが含まれます。

ディスクイメージには、マスターブートレコード(MBR)があるゼロトラックと同様にすべてのディスクパーティションのイメージが含まれます。**完全なディスク不良からリカバリ**できるためには、ディスクドライブ全体をバックアップする必要があります。PC システムのベンダーがインストールした**非表示のリカバリパーティションをキャプチャ**するには、ディスク全体をバックアップするしかありません。

注：一度に復元できるディスク/パーティションは1つのみです。

フルバックアップ、増分、差分バックアップ

フルバックアップは、増分バックアップや差分バックアップに比べて完了するまでに時間がかかります。時間とディスクスペースを節約するために、フルバックアップをスケジュールして、増分バックアップや差分バックアップより頻度を少なくします。通常は、増分バックアップや差分バックアップは毎日実行するのに対して、フルバックアップは1週間または1カ月に一度スケジュールします。すべての増分または差分バックアップを含むフルバックアップに必要な全ファイルは、バックアップセット内にとともに保存されます。希望するだけのセット数のフルバックアップを保存できます。

バックアップの確認

確認スポットは、バックアップが完了し、正常に復元元として使用できることをチェックします。確認には、バックアップと元のソースファイルの比較は含まれないので、マシンにイメージの場所への読み取りアクセス権がある限り、エージェントがある他のマシンを使用してバックアップファイルを確認できます。バックアップイメージファイルが正常に**イメージの場所**『44 ページ』のパスにコピーされていなければ、正常なバックアップが失敗することがあります。通常は、この問題はネットワークが遅いか、不安定な場合に発生します。遅いネットワークでは、バックアップを確認する際に**スケジュール容量**『13 ページ』および**スケジュールフォルダ**『18 ページ』の**バックアップの確認** オプションの選択を検討してください。

ダイナミックディスク

ダイナミックストレージには、物理的ディスクの複数ボリュームへの分割、または物理的ディスクと他の物理的ディスクと連結してどの物理的ディスクより大きなサイズのボリュームを構成することが含まれます。従来型のディスクボリュームは、「基本」ディスクボリュームと呼ばれます。

Backup は、次に示す基本およびダイナミックのバックアップと復元をサポートしています。

- 基本ディスクのバックアップ
- ダイナミックディスクのバックアップ
- 基本ボリュームの基本ディスクへの復元
- 基本ボリュームのダイナミックディスクへの復元
- ダイナミックボリュームの基本ディスクへの復元
- ダイナミックボリュームのダイナミックディスクへの復元

注： **Universal Restore** 『30 ページ』はダイナミックディスクの類似のハードウェアへの復元をサポートしていますが、新しいドライバーを必要とする別のハードウェアプラットフォームへのダイナミックディスクの復元はサポートしていません。別のハードウェアプラットフォームへ復元するには、ダイナミックディスクのバックアップを基本ディスクに復元する必要があります。

ダイナミックディスクおよび GPT ディスクのディスクベースのバックアップ

バックアップクライアントの ABR10 および ABR11 は、ダイナミックディスクおよび GPT ディスクのディスクベースのバックアップをサポートしています。ABR10 より前のバージョンでは、これらのディスクタイプについて**パーティションベースのバックアップ**『4 ページ』のみがサポートされていました。ダイナミックディスクおよび GPT ディスクのディスクベースのバックアップを復元するには、Universal Restore が必要です。ダイナミックディスクおよび GPT ディスクの自動リカバリと CD リカバリはサポートされていません。ABR11 は、Windows が GPT ボリューム（パーティション形式が GPT）にインストールされた EFI ベースシステムもサポートします。

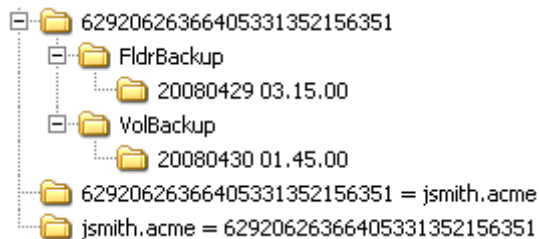
注： ABR11 より前の **Backup** クライアントは、EFI ベースのシステムをサポートしていません。GPT ボリュームに **Windows** がインストールされている場合、バックアップと復元に **ABR11** を使用したときにのみ、復元システムがブートします。詳細については、Acronis の **KB 項目**『<http://kb.acronis.com/content/5684> を見て』を参照してください。

バックアップフォルダ構造

ボリュームおよびフォルダのバックアップでは、個別の**イメージの場所**『44 ページ』のパスを指定します。ボリュームバックアップおよびフォルダバックアップは、フルバックアップのステップで保存されます。それぞれのバックアップセットにはそれ自体のフォルダがあります。バックアップファイルの拡張子は、*.tib です。

バックアップフォルダは、それぞれのマシン ID を一意に特定する GUID を使用して整理されます。マシン ID の代わりに GUID を使用して、マシン ID の名前を変更したり、マシン ID を別のグループに指定しても、バックアップができなくなることはありません。

同じバックアップイメージの場所のフォルダにある 2 つの追加で空のフォルダによって、それぞれの GUID に関連するマシン ID が特定されます。たとえば、jsmith.acme という名前のマシン ID があり、その GUID が 62920626366405331352156351 である場合、フォルダはイメージ場所フォルダで次のように編成されます。



最初のフォルダにはバックアップがあります。二番目の空のフォルダは、GUID に対するマシン ID を特定します。三番目の空のフォルダは、マシン ID に対する GUID を特定します。多数のマシン ID に対するバックアップがすべて同じイメージ場所のフォルダにあるなら、2 つの空のクロス参照フォルダのどちらかを使用して、マシン ID または GUID のどちらかによって、適切な GUID バックアップフォルダを特定できます。

Kaseya Server のバックアップ

VSS が有効の場合でも、Kaseya Server の実行中には、**Backup** を使用して Kaseya Server をバックアップしないでください。その操作により、バックアップ中のデータベースにバックアップに関する情報を VSA が書き込むときに問題が発生します。Kaseya Server のデータは、データベースのメンテナンスサイクルが実行されるたびに自動的にバックアップされます。データベースのメンテナンスサイクルの頻度を設定するには、[システム] > [サーバー管理] > **[構成]**『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#248.htm>』を見て』の**[データベースバックアップ/メンテナンスを<N>日ごと<時刻>に実行]**オプションを使用します。**スケジュールフォルダ**『18 ページ』を使用して、Kaseya のデータベースバックアップファイルを含むフォルダをバックアップできます。

Backup の Kaseya 関連ファイルのバックアップを使用するときに最大の柔軟性と復元性が得られるように、サーバーで実行する他のバックアップに加えて、Kaseya Server の次のフォルダをバックアップする**フォルダバックアップ**を構成することが推奨されます。

```

C:\<KaseyaInstallDirectory>\UserProfiles
C:\<KaseyaInstallDirectory>\WebPages\ManagedFiles
C:\<KaseyaInstallDirectory>\WebPages\banner\default\images\new
C:\<KaseyaInstallDirectory>\WebPages\compact\default\images\new
C:\<KaseyaInstallDirectory>\WebPages\themes\default\images\new
C:\<KaseyaInstallDirectory>\WebPages\Access
  
```

[フォルダのスケジュール]のスケジュールが、[システム] > [システム管理] > **[構成]**ページで設定した

Kaseya のデータベースのバックアップと重ならず Kaseya Server のバックアップフォルダに構成したフォルダが**フォルダバックアップ**のフォルダに含まれていることを確認します。

バックアップ結果を更新するために Kaseya が SQL データベースへの書き込みアクセスを必要とするので、Kaseya Server の **Backup** バックアップの実行中には SQL サービスまたは Kaseya Server のサービスを停止しないでください。

注：「Kaseya サーバーのセットアップ」『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/install/index.asp#home.htm>を見て』を参照してください。

Kaseya Backup Local UI

Kaseya Backup Local UI は、バックアップクライアントがインストールされた各エンドポイントのバックグラウンドで動作します。このバージョンでは次の操作が可能です。

- フォルダおよびボリュームのバックアップを検証する。
- 復元するボリュームバックアップをマウントする。
- フォルダバックアップからすべてのファイルを復元する。
- ボリュームバックアップを仮想ハードディスクに変換する。

Kaseya Backup Local UI は通常、次の場所にあります。

- 32 ビットマシンの場合: c:\Program Files\Kaseya\<VSA_ID>\Backup\KaseyaBackupLocalUI.exe
- 64 ビットマシンの場合: c:\Program Files (x86)\Kaseya\<VSA_ID>\Backup\KaseyaBackupLocalUI.exe

<VSA_ID>は、お使いの VSA に関連する一意の識別子です。また、このパスのショートカットが Acronis フォルダにもあります。

Offsite Replication

オフサイトレプリケーションは、LAN からリモートの場所にバックアップイメージを安全かつ確実に転送します。オフサイトレプリケーションは、**ローカルサーバー** 『33 ページ』ディレクトリ内にあるファイルやサブディレクトリに対するすべての変更を、指定した**オフサイトサーバー** 『31 ページ』ディレクトリに転送します。

- ファイル転送は **スケジュール転送** 『39 ページ』を使ってスケジュールします。
- **イメージの場所** 『44 ページ』のディレクトリは、これらの転送に含まれるローカルサーバーディレクトリのサブディレクトリとして定義しなければなりません。
- **[オフサイト警報** 『36 ページ』] ページでは、指定したローカルサーバーがそのオフサイトサーバーに接続できない場合に警報を作成します。
- オフサイトレプリケーションは、**合成フルバックアップ** 『10 ページ』の使用をサポートします。

オフサイトサーバーの構成

マシン ID はオフサイトサーバーとして機能できます。オフサイトサーバーは希望するだけ多数持てます。オフサイトサーバーの構成例は以下のとおりです：

バックアップ概略

- **1つのグローバルオフサイトサーバー** - それぞれの管理される LAN がグローバルオフサイトサーバーにデータを送るローカルサーバー。
- **複数のオフサイトサーバー** - 複数のローカルサーバーがそれぞれのオフサイトサーバーに指定されます。複数のオフサイトサーバーは負荷をバランスするために使用します。
- **クロスオフサイトサーバー** - 複数の場所がある会社のオフサイトレプリケーションをサポートします。たとえば、2 か所の会社サイトが、互いに他方の会社サイトにとってのオフサイトサーバーの場所として機能します。

ローカルサーバー

[**ローカルサーバー** 『33 ページ』] ページでは、すべての新しいファイルを**オフサイトサーバー** 『31 ページ』に転送するために使用するローカル LAN 上のマシン ID およびディレクトリを定義します。オフサイトレプリケーションは、ローカルサーバーのディレクトリのファイルやサブディレクトリへのすべての変更を指定したオフサイトサーバーのディレクトリに転送します。ファイル転送は **スケジュール転送** 『39 ページ』を使ってスケジュールします。**イメージの場所** 『44 ページ』のディレクトリは、これらの転送に含まれる**ローカルサーバー** ディレクトリのサブディレクトリとして定義しなければなりません。

それぞれのローカルサーバーに対して、以下を指定します：

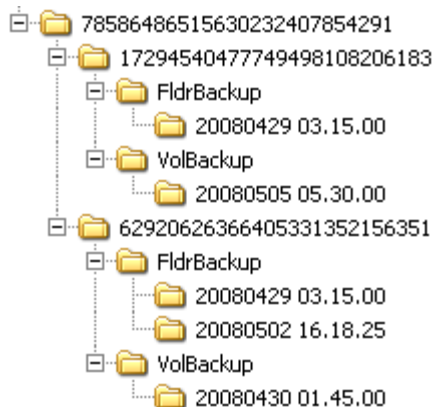
- ファイルを送るオフサイトサーバー。
- オフサイトサーバーへの送信を行うローカルディレクトリのパス。
- オプションの帯域制限です。

ローカルサーバーのディレクトリは、ネットワークファイルの共有のディレクトリをポイントしている UNC パスになります。マップドライブを使用してローカルサーバーのディレクトリを指定しないでください。ローカルサーバーには、ネットワークにアクセスできるように設定した**証明書** 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#352.htm>』を見て』が必要です。

注： オフサイトレプリケーションは、**Kaseya Backup** を使用して作成されたバックアップセットのレプリケーション専用で設計されています。他のファイルタイプまたはフォルダのレプリケーションは、サポートされていません。

オフサイトフォルダ構造

オフサイトサーバーは、指定したディレクトリにローカルサーバーから受信したデータを保存します。トップレベル GUID フォルダは、データが来たローカルサーバーの GUID です。セカンドレベル GUID フォルダは、バックアップするマシン ID の GUID です。以下の図は、一般的なオフサイトサーバーのディレクトリ構造を示しています。



ファイル転送

ファイルの変更だけがオフサイトサーバーに送信されます。失敗したファイル転送は、失敗した時点から自動的に再起動されます。ファイル転送を最初から再起動する必要はありません。オフサイトのレプリケーションは、エージェント/サーバーの通信と同じ通信技術を使用します。すべてのトラフィックは、256-ビット暗号化されます。

ローカルサーバーとオフサイトサーバーに同じマシンを使用する

オフサイトサーバーをローカルサーバーと同じマシンに指定する場合がありますが、以下に注意してください：

- ドライブに渡ってレプリケーションするために単にポートを開くだけですが、他のレプリケーションツールはローカルで行います。
- ファイルはオフサイトではコピーされません。オフサイトのバックアップによる障害復旧の利点が失われます。

名前/IP アドレスとポートの設定

オフサイトサーバーとして機能するエージェントがあるターゲットマシンを選択します。オフサイトサーバーは常に動作し、指定した TCP ポートを使用してローカルサーバーからの接続をリスンします。ポートは、他のアプリケーションでは使用できません。エージェントのチェックインポートと同様に、9721 の使用を試してください。オフサイトサーバーのポートは、1024~49151 に制限されます。

注：バックアップクライアント v10.x 以降を使用している場合、ポート **9876** または **9877** は使用しないでください。これらのポートは、Acronis Backup & Recovery コンポーネントが使用しており、オフサイトレプリケーションサービスと競合します。

ローカルサーバーから解決できる DNS 名または IP アドレスを指定しなければなりません。通常は、これは外部の名前/ゲートウェイの IP アドレス/ファイアウォール/ターゲットマシンが使用するルーターです。**ポートの範囲**のゲートウェイ/ファイアウォール/ポート 9721—またはそれ以外の選んだポート番号にリクエストを送るルーターでの転送を—オフサイトサーバーとして機能するマシン ID の内部 IP アドレスに設定します。

注：オフサイトサーバーは、ネットワークディレクトリにアクセスしてデータ転送を受信するために、**資格情報** 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#352.htm> を見て 』セットが必要です。

オフサイトの構成のテスト

オフサイトサーバーを構成したら、オフサイトサーバーのマシンのペンディング手順をチェックします。

1.  または  のアイコンをクリックします。
2. **[Live Connect]** 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#4796.htm> を見て 』 > [エージェントデータ] > [保留中の手順] タブをクリックします。
3. Start Offsite Server 手順が正常に実行されたことを確認します。

Telnet を使用して、オフサイトサーバーのコンポーネントへの接続を試みます。次のコマンドの文字列 your.offsiteServer.com を名前/IP アドレスに置換します。9721 を、使用しているポート番号に置換します。

```
telnet your.offsiteServer.com 9721
```

接続が成功すると、点滅するカーソルが表示されるはずです。オフサイトサーバーの準備が完了していることを確認した後、**ローカルサーバー** 『33 ページ 』を構成できます。

合成フルバックアップ

合成フルバックアップは、既存の増分または差分バックアップと以前のフルバックアップのイメージを統合して作成します。これは、時には「永久増分バックアップ」と呼ばれます。従来型のフルバックアップとは違って、合成フルバックアップはローカルサーバーからオフサイトサーバーへ転送されません。代わりに、最初のフルバックアップが転送された後は、増分または差分のファイルだけがオフサイトサーバーへ転送されます。オフサイトサーバーの合成フルバックアップは、ローカルサーバーと並行して次の合成フルバックアップを再作成します。これによって、ローカルサーバーとオフサイトサーバーの間でフルバックアップを転送する必要がなくなります。合成フルバックアップでは、フルバックアップの転送のための帯域要件は不要ですが、オフサイトサーバーによる自身のファイルサーバーへのアクセスを強化して合成フルバックアップの処理を取り扱う必要があります。

合成フルバックアップが KBU 管理マシンで使用されており、かつ**イメージの場所** 『44 ページ』または**オフサイトサーバー** 『31 ページ』のローカルディレクトリが、`\\server\share` などの UNC パスである場合、**[ネットワークへ直接アクセスする]**ではなく、デフォルトで**[まずファイルをローカルにコピーする]**が有効になります。この堅牢な統合オプションを効率的に使用するには、管理マシンに適切なハードディスクスペースが必要です。詳細は、Kaseya の**ナレッジベース** 『<https://helpdesk.kaseya.com/entries/33899557> を見て』を参照してください。

注： Offsite Replication 『7 ページ』を参照してください。

合成フルバックアップの構成には以下のステップがあります：

以下の最初の 3 つのステップは、すべてのオフサイトサーバーに適用されます。

1. ローカルサーバーにエージェントをインストールします。通常は、バックアップしているマシン ID のバックアップイメージの場所はローカルサーバーを指しています。

注： バックアップクライアントをローカルサーバーまたはオフサイトサーバーにインストールする必要はありません。

2. オフサイトサーバーにエージェントをインストールします。
3. **[バックアップ] > [オフサイトサーバー]** 『31 ページ』を使用して、マシン ID をオフサイトサーバーとして定義します。

これらのステップは、合成フルバックアップを使用するオフサイトサーバーに適用されます。

4. **[バックアップ] > [オフサイトサーバー]** ページで、合成のサポートをスケジュールするマシン ID の**[インストールをスケジュールする]**ハイパーリンクをクリックします。ダイアログボックスが表示されます。合成サポートコンポーネントのオフサイトサーバーへのインストールをスケジュールします。
5. **[バックアップ] > [ボリュームのスケジュール]** 『13 ページ』または**[フォルダのスケジュール]** 『18 ページ』を使用してマシン ID のバックアップを作成する場合は、必ず**[合成フル]**チェックボックスをチェックしてください。これらは、バックアップを上で定義したオフサイトサーバーへ転送するローカルサーバーにバックアップを保存するマシン ID です。
6. **[バックアップステータス]** 『12 ページ』ページを使用して、スケジュールした合成バックアップの進捗状況をチェックします。このページの**[オフサイトサーバーのステータス]**および**[ローカルサーバーのステータス]**のセクションに、**[合成バックアップがキューに登録済み]**列が表示されます。この列には、合成バックアップがスケジュールされた各マシン ID の台数が表示されます。リンクをクリックすると、個々の合成フルバックアップのキューステータスを表示するウィンドウが表示されます。

非表示のプリファレンス

[[ボリュームのスケジュール](#) 『13 ページ』]または[[フォルダのスケジュール](#) 『18 ページ』]のヘッダーパネルで、Alt キーを押して合成フルバックアップ  アイコンをクリックすると、各マシンに個別に適用可能なプリファレンスのタブが5つ表示されます。

[合成フル]タブ

- [合成フルバックアップを実行する場合 - 合成フルバックアップ](#) 『10 ページ』が KBU の管理マシンで使用されており、かつ[イメージの場所](#) 『44 ページ』または[オフサイトサーバー](#) 『31 ページ』のローカルディレクトリが\\server\share のような UNC パスである場合、[\[ネットワークへ直接アクセスする\]](#)ではなく、[\[まずファイルをローカルにコピーする\]](#)が有効になりません。この堅固な統合のオプションを効率的に使用するには、管理されるマシンに適切なハードディスクスペースが必要です。詳細については、Kaseya の[ナレッジベース](#) 『<https://helpdesk.kaseya.com/entries/35940987> を見て』を参照してください。
- [成功するまで合成フルバックアップを<N>回実行](#) - 合成フルバックアップについて[\[合成フルの試行\]](#)の回数を設定します。
- [再試行予定 \(<N>日後\)](#) - [再試行予定 \(日後\)](#) の日数を設定します。

[インストラ]タブ

- [同時ダウンロードの最大数](#) - 同時ダウンロードの最大件数を設定します。

[オフサイトレプリケーション]タブ

- [オフサイトデータの整合性チェックに使用する検証方法](#) - オフサイトデータの整合性をチェックするための検証方法を選択します。
 - [Quickest File Verification using File Size and Last Modified Time](#)
 - [Quick File Verification with SHA-1 Hash for Partial Files only](#)
 - [File Verification with SHA-1 Hash for Partial Files and Complete Files](#)

[診断]タブ

- [選択したマシンで AcronisInfo を実行する](#) - 選択したマシンで *AcronisInfo* を実行します。
AcronisInfo は、ユーザー権限の割り当てリスト、Windows イベントログ、Msinfo32、Acronis のレジストリキー、Acronis のログ、Acronis スケジュールレポート、Acronis ディスクレポート、およびユーザーの Active Directory グループを自動的に収集するユーティリティです。この情報は、*AcronisInfo.zip* ファイルに入れられます。その後、*AcronisInfo.zip* ファイルは、選択したマシンの[\[AcronisInfo のリンク\]](#)列に表示されるリンクからダウンロードできるようになります。

注: *AcronisInfo.zip* ファイルを作成すると、ユーザーのデスクトップに進捗バーと他のプログラムが即座に表示されます。このプロセスを実行する前に、ユーザーの承認を得ることが推奨されます。

[バックアップオプション]タブ

- [複数ボリュームのスナップショットオプションを使用する](#) - このオプションは、ボリュームバックアップ用の VSS があるマシン、および[\[ボリュームのスケジュール](#) 『13 ページ』]ページにのみ該当します。チェックした場合、バックアップ中のすべてのボリュームのスナップショットが同時に作成されます。このオプションを使用して、データベースファイルなど、複数のボリュームに分散するデータについて、時間的に整合性のあるバックアップを作成します。チェックしない場合、ボリュームのスナップショットは順番に取得されます。複数ボリュームに分散するデータのバックアップが一貫しないことがあります。

Backup モジュールの要件

Kaseya Server

- Backup R91 モジュールを使用するには、VSA R91 が必須です。

管理される各マシンの要件

- 512 MB の RAM
- 2.3 GB の空きディスクスペース
- Microsoft Windows Server 2003、2003 R2、2008、2008 R2、2012、2012 R2
- Microsoft Windows XP SP3、Vista、7、8、8.1

注：概要の「システム要件」 『

<http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9010000/reqs/index.asp#home.htm> を見て 』を参照してください。

バックアップステータス

【バックアップ】 > 【バックアップステータス】

- 【情報センター】 > 【レポート】 > 【レポート】 > 【バックアップ】で類似の情報が表示されます。

バックアップステータス ページには、バックアップクライアントがインストールされているマシン ID のバックアップステータスのダッシュボードビューがあります。

注： 管理マシンに他のバックアップ製品がインストールされている場合、**Backup** で問題が発生する可能性があります。**Backup** を使用してボリュームやフォルダをバックアップする前に、他のバックアップ製品をアンインストールします。他のバックアップ製品がインストールされていると、**バックアップステータス** 『12 ページ 』 ページに警告メッセージが表示されます。

最後の<N><期間>のステータスの表示と更新

このページに表示される結果を収集する期間の数を指定して、**更新** ボタンをクリックします。

ダッシュボードのパネル

ダッシュボードは以下のペインで構成されます：

- **プロセス内バックアップ** - プロセス内バックアップおよび完了のパーセンテージをリストアップします。
- **バックアップステータスの外観** - スケジュール、成功、スキップ、失敗およびキャンセルされたバックアップを示すパイチャートを表示します。パイチャートのスライス、またはパイチャートのラベルのどれかをクリックして、そのスライスに属する個々のマシンのリストを表示します。
- **マシン別バックアップステータス** - それぞれのマシンのスケジュールされた、成功した、スキップされた、失敗した、またはキャンセルされたバックアップのステータスを表示します。また、バックアップがオフサイトレプリケーションによって複製される場合、最後に正常にバックアップを実行したのがいつであったかも表示します。

- **オフサイトサーバーのステータス** - オフサイトサーバーの合計ファイル、アップロード待ちのファイル、およびアップロード待ちのデータを表示します。ハイパーリンクされたカウンターのどれかをクリックすると、オフサイトサーバーのファイルを表示します。赤色/黄色/緑色のステータス●アイコンは、そのオフサイトサーバーに接続されているすべてのローカルサーバーの中で最低のステータスを示しています。したがって、複数のローカルサーバーの中で単一のローカルサーバーが非アクティブであると、アイコンは赤色です。このアイコンをクリックすると、パネルが開いて、このオフサイトサーバーに関連付けされているすべてのローカルサーバーが表示されます。

[**合成バックアップがキューに登録済み**]列を使用して、オフサイトサーバーのスケジュール済み合成バックアップの進捗をチェックします。この列には、合成バックアップがスケジュールされた各マシン ID の台数が表示されます。リンクをクリックすると、個々の合成バックアップのキューステータスを表示するウィンドウが表示されます。

- **ローカルサーバーのステータス** - ローカルサーバーの合計ファイル、アップロード待ちのファイル、およびアップロード待ちのデータを表示します。ハイパーリンクされたカウンターのどれかをクリックすると、ローカルサーバーのファイルを表示します。ローカルサーバーの赤色/黄色/緑色のステータス●アイコンをクリックすると、**ローカルサーバー** 『33 ページ』のページへ移動します。

[**合成バックアップがキューに登録済み**]列を使用して、ローカルサーバーのスケジュール済み合成バックアップの進捗をチェックします。この列には、合成バックアップがスケジュールされた各マシン ID の台数が表示されます。リンクをクリックすると、個々の合成バックアップのキューステータスを表示するウィンドウが表示されます。

スケジュールのボリューム

[バックアップ] > [ボリュームのスケジュール]

[**ボリュームのスケジュール**]ページでは、選択したマシン ID のボリュームのバックアップをスケジュールします。選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ] > [**インストール/削除**] 『40 ページ』ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

注：ネットワーク接続が切断された場合、システムは最大 10 秒、再試行します。

KBU の全般的な説明については、「**他のバックアップ製品のアンインストール**」 『3 ページ』、「**ボリュームバックアップとフォルダバックアップの違い**」 『4 ページ』、「**フルバックアップ、増分、差分バックアップ**」 『4 ページ』、「**バックアップの確認**」 『5 ページ』、「**合成フルバックアップ**」 『10 ページ』、「**ダイナミックディスク**」 『5 ページ』、「**バックアップフォルダ構造**」 『6 ページ』、および「**Kaseya Server のバックアップ**」 『6 ページ』を参照してください。

アクション

- **フルのスケジュール** - クリックすると、以前に選択したバックアップオプションを使用して、選択したマシン ID の新しいフルバックアップがスケジュールされます。[**フルのスケジュール**]をクリックすると、4 つの[適用]ボタンで設定したバックアップオプションセットが、選択したマシン ID に適用されます。

スケジュールのボリューム

注：バックアップはかなり多くのネットワーク帯域を使用します。通常の業務時間のネットワークの混雑を避けるため、バックアップを業務時間外にスケジュールします。

- **キャンセル** - [キャンセル]をクリックすると、選択したマシン ID の保留中のバックアップがクリアされます。4つの[適用]ボタンで設定したバックアップオプションの設定もクリアされます。
- **すぐにバックアップ** - クリックすると、バックアップが存在しない場合、選択したマシンIDのフルバックアップが開始されます。または**すぐにバックアップ**をクリックして、増分または差分のバックアップを作成します。
- **適用** - クリックすると、バックアップスケジュールを変更せずに、選択したマシンIDに設定行が適用されます。

スケジュールオプション

- **日付/時間** - このタスクをスケジュールする年、月、日、時、および分を入力します。
- **順次実行 - 間隔** - 時間をずらしてこのタスクを順次実行することで、ネットワークの負荷を分散できます。このパラメータを5分に設定すると、各マシンIDのタスクは5分ごとにスタaggerされます。たとえば、マシン1が10:00に実行し、マシン2は10:05に実行し、マシン3は10:10に実行します、...
- **マシンがオフラインの場合は省略する** - チェックした場合、スケジュールした時刻から15分の範囲内でのみこのタスクが実行されます。マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックを解除すると、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。
- (バックアップセットのタイプ) - スケジュールするバックアップセットのタイプを選択します。**適用**をクリックして、選択したマシンIDに、バックアップスケジュールを変えることなく、これらの設定を適用します。

- **増分**  - 前回のフルバックアップまたは増分バックアップ以降に変更があったファイルだけをキャプチャします。増分バックアップからの復元では、すべての以前の増分イメージに加えて元のフルバックアップが必要です。フルバックアップセットのディレクトリからファイルを削除しないでください。

警告：増分バックアップは、セクターレベルで変更を検出します。ハードディスクの断片解消を行う場合、大量のディスクセクターが移動し、変更が必要になります。この結果として、増分バックアップファイルが大規模になります。これは、セクターレベルのバックアップシステムでは通常のことです。

- **最後の差分**  - 最後のフルバックアップ以後のターゲットシステムに対するすべての変更をキャプチャします。ディスクスペースを節約するために、それぞれのフルバックアップのセットと共に最新の差分バックアップだけを保存します。**最後の差分**を選択して、バックアップの保管要件を最小化します。
- **すべての差分**  - 最後のフルバックアップ以後のターゲットシステムに対するすべての変更をキャプチャします。最後の差分バックアップに加えてすべての差分バックアップを保存します。
- **<N>期間ごと** - 増分バックアップおよび差分バックアップは、常に繰り返しタスクとして実行されます。各期間ごとの、このタスクを実行する回数を入力します。選択したマシンIDにこれらの設定を適用するために**適用**をクリックします。「0」を入力すると、増分バックアップまたは差分バックアップのスケジュールリングが無効になります。
- **<N>期間ごとにフル** - フルバックアップは、常に繰り返しタスクとして実行されます。各期間ごとの、このタスクを実行する回数を入力します。選択したマシンIDにこれらの設定を適用するために**適用**をクリックします。

- **最後の<N>セットのバックアップを保存** - 保持するフルバックアップのセット数を指定します。**バックアップセット**は、フルバックアップに、そのフルバックアップを参照しているすべての増分または差分のバックアップを加えたものです。新しいフルバックアップから開始すると、新しいフルバックアップセットが作成されます。したがって、ここで「3」と入力すると、現在のフルバックアップに加えて、最後の2セットのフルバックアップが管理されます。**適用**をクリックして、選択したマシンIDに、バックアップスケジュールを変えることなく、これらの設定を適用します。
- **合成フル** - チェックした場合、既存の増分または差分のバックアップと以前の基本フルバックアップのイメージを統合して、新しいフルバックアップが作成されます。

注：[ポリシーのスケジュール]または[フォルダのスケジュールのヘッダーパネル]で、Alt キーを押して合成フルバックアップ  アイコンをクリックすると、各マシンに個別に適用可能な設定タブが4つ表示されます。詳細については、「非表示のプリファレンス」『11 ページ』を参照してください。

- **バックアップの確認** - チェックした場合、フル、増分、または差分の各バックアップの完了直後に、各バックアップのイメージを**確認**『5 ページ』します。**確認には、元のバックアップが完了するまでと同じ長さの時間がかかります。** バックアップファイルの場所へのネットワーク接続の完全性に疑問がある場合にだけ確認を行ってください。一般的には、このオプションを使用する必要はありません。**イメージの確認**『24 ページ』機能を使用して、いつでもスポットでバックアップファイルをチェックできます。
- **バックアップを実行する前に削除する** - チェックした場合、システムは新しいバックアップセットを作成する前に、[最後の<N>セットのバックアップを保存]を使用して保存していないバックアップセットを削除します。空白にすると、削除がスケジュールされているバックアップセットは、新しいバックアップセットが正常に作成されてから削除されます。
- **VSS サポートを有効にする** - 2003 サーバーで**ポリシーシャドーサービス** (VSS) を有効にします。VSSによって、バックアッププロセスが開始する前に、すべてのトランザクションが必ず完了します。**適用**をクリックして、選択したマシンIDに、バックアップスケジュールを変えることなく、これらの設定を適用します。

テーブルの列

- **すべて選択/すべて選択解除** - [すべて選択]リンクをクリックすると、ページのすべての行がチェックされます。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。
- **(チェックインステータス)** - これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイック表示ウィンドウが表示されます。
 -  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
 -  エージェントがオンライン
 -  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
 -  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
 -  エージェントが現在オフライン
 -  エージェントが今までチェックインしたことがない
 -  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不動作
 -  エージェントが延期された
- **Machine.Group ID** - VSA のマシンの一意のマシン ID/グループ ID/組織 ID 名

事前/事後手順：バックアップ

- **ディスク** - マシンで使用可能なローカルハードドライブディスクのディスク番号別のリスト。ディスク番号はマシンの BIOS で指定されます。ディスク番号をチェックして、ボリュームのバックアップに含めます。ディスク全体をバックアップして、PC ベンダーがインストールしている非表示のパーティションも必ずバックアップします。こうした非表示のパーティションは、復元イベントでシステムをブートするのに必要です。
- **セット数** - 一度に管理するバックアップセット数。
- **増分/差分** - 管理しているバックアップセットのタイプ。
 -  - 増分
 -  - 差分
 -  - すべての差分
 -  - 合成フル
- **バックアップの前に削除する** - チェックした場合、システムは保存されていないバックアップセットを削除してから、新しいバックアップセットを作成します。
- **最後のバックアップ** - バックアップが最後に実行された日付/時刻。
- **パーティション** - マシンで利用可能なパーティションの利用可能なドライブ文字のリスト。ドライブ文字をチェックして、ボリュームのバックアップに含めます。
- **マシンがオフラインの場合は省略する** - チェックマークが表示されている場合、マシンがオフラインのときには省略し、次にスケジュールされている期間および時刻に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。
- **次のバックアップ** - スケジュールされた次のバックアップ。日付/時間期限切れスタンプは**赤**の文字に黄色のマーカーで表示されます。
- **期間（フル）** - スケジュールされたフルバックアップの間隔。
- **期間（増分/差分）** - スケジュールされた増分/差分バックアップの間隔。
- **VSS の確認** - チェックした場合、バックアップ時に**ボリュームシャドーサービス（VSS）**が有効になります。

事前/事後手順：バックアップ

[バックアップ] > [事前/事後手順]

事前/事後手順 ページを使用して、**スケジュール容量** 『13 ページ』 バックアップの開始前または完了後のどちらかでエージェント手順を実行します。**スケジュールフォルダ** 『18 ページ』 バックアップには適用しません。

このページを使用して、ファイルをロックしているサービスを停止し、ボリュームバックアップの完了を防ぎます。システムのバックアップの前に、エクスチェンジやデータベースなどのシステムサービスにすべてのデータをディスクに書き込ませたい場合があるかもしれません。通常は、バックアップ中に対象となるサービスを停止**させなくても**、これを行えます。すべての重要なサービスが、いつでも完全に動作していることが可能です。たとえば、エクスチェンジサーバーをバックアップするには、バックアップを開始する前にデータベースのスナップショットが必要です。手順が迅速に起動し、エクスチェンジを停止して、バックアップを開始する前にデータベースのスナップショットを取ります。

事前/事後手順を起動する

1. マシン ID を選択します。

2. **スクリプトを選択**のリンクをクリックして、**スケジュール容量**のバックアップが開始する前または完了した後に実行する手順を選択します。
3. バックアップの完了後にエージェント手順を実行する場合は、バックアップの完了ステータスが任意のステータス、成功、または失敗の場合にエージェント手順を実行するかどうかを指定します。
4. **設定**をクリックします。

設定

設定をクリックして、選択したエージェントを**スケジュール容量**のバックアップが開始する前または完了後に実行します。

バックアップが開始する前に<select script>を実行する

チェックすると、**スケジュール容量**のバックアップが開始する前に選択したエージェントを実行します。

バックアップが完了した後に<select script>を実行する

チェックすると、**スケジュール容量**のバックアップが完了した後に選択したエージェントを実行します。完了後に実行するエージェント手順について、任意のステータス、成功、または失敗の場合に、エージェント手順を実行するかどうかを指定します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
-  エージェントが現在オフライン
-  エージェントが今までチェックインしたことがない
-  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
-  エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。[リモートコントロール]>[マシンをコントロール]ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム]>[ユーザーセキュリティ]>[スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

事前スクリプト/事後スクリプト

この列は、[スケジュール容量](#)のバックアップの開始前または完了後に実行するように設定されているエージェント手順をリストアップします。

スケジュールのフォルダ

[バックアップ] > [フォルダのスケジュール]

[スケジュールフォルダ](#) ページは、選択したマシン ID のフォルダのバックアップをスケジュールします。バックアップするフォルダを指定するには、[バックアップ] > [フォルダバックアップ] 『48 ページ』を使用します。選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ] > [インストール/削除] 『40 ページ』 ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

注： ネットワーク接続が切断された場合、システムは最大 10 秒、再試行します。

セクターレベルのバックアップ

フォルダバックアップは、選択したフォルダのセクターレベルのバックアップを実行します。セクターレベルのコピーは、システムがロックされていたり、ファイルが使用中でもバックアップできます。ですから安全バックアップを 1 日のいつでもできます。

KBU の全般的な説明については、「[他のバックアップ製品のアンインストール](#)」 『3 ページ』、「[ボリュームバックアップとフォルダバックアップの違い](#)」 『4 ページ』、「[フルバックアップ、増分、差分バックアップ](#)」 『4 ページ』、「[バックアップの確認](#)」 『5 ページ』、「[合成フルバックアップ](#)」 『10 ページ』、「[ダイナミックディスク](#)」 『5 ページ』、「[バックアップフォルダ構造](#)」 『6 ページ』、および「[Kaseya Server のバックアップ](#)」 『6 ページ』を参照してください。

アクション

- **フルのスケジュール** - クリックすると、以前に選択したバックアップオプションを使用して、選択したマシン ID の新しいフルフォルダバックアップがスケジュールされます。[\[フルのスケジュール\]](#) をクリックすると、4 つの[\[適用\]](#) ボタンで設定したバックアップオプションセットが、選択したマシン ID に適用されます。

注： バックアップはかなり多くのネットワーク帯域を使用します。通常の業務時間のネットワークの混雑をさけるため、バックアップを業務時間外にスケジュールします。

- **キャンセル** - [\[キャンセル\]](#) をクリックすると、選択したマシン ID の保留中のバックアップがクリアされます。4 つの[\[適用\]](#) ボタンで設定したバックアップオプションの設定もクリアされます。
- **すぐにバックアップ** - クリックすると、バックアップが存在しない場合、選択したマシン ID のフルバックアップが開始されます。または[すぐにバックアップ](#) をクリックして、増分または差分のバックアップを作成します。
- **適用** - クリックすると、バックアップスケジュールを変更せずに、選択したマシン ID に設定行が適用されます。

スケジュールオプション

- **日付/時間** - このタスクをスケジュールする年、月、日、時、および分を入力します。

- **順次実行 - 間隔** - 時間をずらしてこのタスクを順次実行することで、ネットワークの負荷を分散できます。このパラメータを5分に設定すると、各マシンIDのタスクは5分ごとにスタaggerされます。たとえば、マシン1が10:00に実行し、マシン2は10:05に実行し、マシン3は10:10に実行します、...
- **マシンがオフラインの場合は省略する** - チェックした場合、スケジュールした時刻から15分の範囲内でのみこのタスクが実行されます。マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックを解除すると、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。
- (バックアップセットのタイプ) - スケジュールするバックアップセットのタイプを選択します。**適用**をクリックして、選択したマシンIDに、バックアップスケジュールを変えることなく、これらの設定を適用します。

- **増分**  - 前回のフルバックアップまたは増分バックアップ以降に変更があったファイルだけをキャプチャします。増分バックアップからの復元では、すべての以前の増分イメージに加えて元のフルバックアップが必要です。フルバックアップセットのディレクトリからファイルを削除しないでください。

警告：増分バックアップは、セクターレベルで変更を検出します。ハードディスクの断片解消を行う場合、大量のディスクセクターが移動し、変更が必要になります。この結果として、増分バックアップファイルが大規模になります。これは、セクターレベルのバックアップシステムでは通常のことです。

- **最後の差分**  - 最後のフルバックアップ以後のターゲットシステムに対するすべての変更をキャプチャします。ディスクスペースを節約するために、それぞれのフルバックアップのセットと共に最新の差分バックアップだけを保存します。**最後の差分**を選択して、バックアップの保管要件を最小化します。
- **すべての差分**  - 最後のフルバックアップ以後のターゲットシステムに対するすべての変更をキャプチャします。最後の差分バックアップに加えてすべての差分バックアップを保存します。
- **<N>期間ごと** - 増分バックアップおよび差分バックアップは、常に繰り返しタスクとして実行されます。各期間ごとの、このタスクを実行する回数を入力します。選択したマシンIDにこれらの設定を適用するために**適用**をクリックします。「0」を入力すると、増分バックアップまたは差分バックアップのスケジュールが無効になります。
- **<N>期間ごと**にフル - フルバックアップは、常に繰り返しタスクとして実行されます。各期間ごとの、このタスクを実行する回数を入力します。選択したマシンIDにこれらの設定を適用するために**適用**をクリックします。
- **最後の<N>セットのバックアップを保存** - 保持するフルバックアップのセット数を指定します。**バックアップセット**は、フルバックアップに、そのフルバックアップを参照しているすべての増分または差分のバックアップを加えたものです。新しいフルバックアップから開始すると、新しいフルバックアップセットが作成されます。したがって、ここで「3」と入力すると、現在のフルバックアップに加えて、最後の2セットのフルバックアップが管理されます。**適用**をクリックして、選択したマシンIDに、バックアップスケジュールを変えることなく、これらの設定を適用します。
- **合成フル** - チェックした場合、既存の増分または差分のバックアップと以前の基本フルバックアップのイメージを統合して、新しいフルバックアップが作成されます。

注：[ボリュームのスケジュール]または[フォルダのスケジュールのヘッダーパネル]で、Alt キーを押して合成フルバックアップ  アイコンをクリックすると、各マシンに個別に適用可能な設定タブが4つ表示されます。詳細については、「非表示のプリファレンス」『11 ページ』を参照してください。

スケジュールのフォルダ

- **バックアップの確認** - チェックした場合、フル、増分、または差分の各バックアップの完了直後に、各バックアップのイメージを**確認**『5 ページ』します。**確認には、元のバックアップが完了するまでと同じ長さの時間がかかります。** バックアップファイルの場所へのネットワーク接続の完全性に疑問がある場合にだけ確認を行ってください。一般的には、このオプションを使用する必要はありません。**イメージの確認**『24 ページ』機能を使用して、いつでもスポットでバックアップファイルをチェックできます。
- **バックアップを実行する前に削除する** - チェックした場合、システムは新しいバックアップセットを作成する前に、**[最後の<N>セットのバックアップを保存]**を使用して保存していないバックアップセットを削除します。空白にすると、削除がスケジュールされているバックアップセットは、新しいバックアップセットが正常に作成されてから削除されます。
- **VSS サポートを有効にする** - 2003 サーバーで**ボリュームシャドウサービス (VSS)**を有効にします。VSSによって、バックアッププロセスが開始する前に、すべてのトランザクションが必ず完了します。**適用**をクリックして、選択したマシン ID に、バックアップスケジュールを変えることなく、これらの設定を適用します。

テーブルの列

- **すべて選択/すべて選択解除** - **[すべて選択]**リンクをクリックすると、ページのすべての行がチェックされます。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。
- **(チェックインステータス)** - これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイック表示ウィンドウが表示されます。
 -  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
 -  エージェントがオンライン
 -  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
 -  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
 -  エージェントが現在オフライン
 -  エージェントが今までチェックインしたことがない
 -  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
 -  エージェントが延期された
- **Machine.Group ID** - VSA のマシンの一意のマシン ID/グループ ID/組織 ID 名。
- **セット数** - 一度に管理するバックアップセット数。
- **増分/差分** - 管理しているバックアップセットのタイプ。
 -  - 増分
 -  - 差分
 -  - すべての差分
 -  - 合成フル
- **バックアップの前に削除する** - チェックした場合、システムは保存されていないバックアップセットを削除してから、新しいバックアップセットを作成します。
- **最後のバックアップ** - バックアップが最後に実行された日付/時刻。
- **マシンがオフラインの場合は省略する** - チェックマークが表示されている場合、マシンがオフラインのときには省略し、次にスケジュールされている期間および時刻に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

- **次のバックアップ** - スケジュールされた次のバックアップ。日付/時間期限切れスタンプは**赤の文字に黄色のマーカーで表示されます**。
- **期間 (フル)** - スケジュールされたフルバックアップの間隔。
- **期間 (増分/差分)** - スケジュールされた増分/差分バックアップの間隔。
- **VSS の確認** - チェックした場合、バックアップ時に**ボリュームシャドーサービス (VSS)** が有効になります。

バックアップセット

[バックアップ] > [バックアップセット]

バックアップセット ページは、ボリュームおよびフォルダの両方に対して、保存している **現在のバックアップセット** のリストを表示します。**スケジュール容量** 『13 ページ』または**スケジュールフォルダ** 『18 ページ』のどちらかを使用して 5 セットのバックアップを指定すると、このページに 5 セットのバックアップが表示されます。このページには、指定した数のバックアップセットを保存するまでに、失敗したすべてのバックアップも表示されます。以下のこともできます：

- ボリュームまたはフォルダに対するすべてのバックアップセットをクリアする。

注： 次のフルバックアップが実行されるまで、バックアップセットは実際にはイメージの場所からクリアされません。

- 進行中のバックアップをキャンセルする。
- バックアップのリンクをクリックして、バックアップのログ詳細を XML フォーマットで表示します。

バックアップがおかしな失敗、説明できない失敗をレポートするまでは、このログファイルを見る必要はありません。そうした場合、ログは破損したファイルやディスクのセクターの特定などバックアップ不良の原因に関する洞察を提供してくれます。

注： 不良ディスクが原因でバックアップが失敗する可能性があります。問題のあるドライブ上で CHKDSK.EXE を実行することにより、エラーが解決する場合があります。

バックアップセットのテーブルは以下をリストアップします：

- **セット名** - バックアップセットの日付/時刻。
- **終了時間** - バックアップセットが完了した時間。
- **タイプ** - バックアップ：フル、差分、または増分。
- **ディスク/ボリューム** - ボリュームバックアップに含まれるディスク番号またはボリューム番号。ディスク番号はマシンの BIOS で指定されます。
- **期間** - バックアップの実行に必要な時間。
- **サイズ** - バックアップのサイズです。
- **結果** - バックアップの成功または失敗。失敗した場合、エラーメッセージも表示されます。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ] > **[インストール/削除]** 『40 ページ』 ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

注： すべてのバックアップのリストについては「**バックアップログ**」 『22 ページ』を参照してください。

バックアップログ

クリア

クリアボタンをクリックして、すべてのボリュームバックアップセットまたはフォルダバックアップセットを手動で削除します。これは、「スタックした」バックアップセットを削除するか、ディスクスペースを空けるのに必要です。

警告： マシン ID について、すべてのボリュームバックアップセット、またはフォルダバックアップセットがクリアされます。

キャンセル

キャンセルをクリックして、プロセス内のバックアップをキャンセルします。

バックアップログ

[バックアップ] > [バックアップログ]

[バックアップログ]ページには、[バックアップ] > [ログの最大保持期間] 『56 ページ』を使用してバックアップログに指定した日数まで、ボリュームおよびフォルダの両方、ローカルおよびオフサイトに対して実行したすべてのバックアップのリストが表示されます。マシン ID をクリックして、日付、タイプ、期間、結果および実行したそれぞれのバックアップ操作の説明を含むログを表示します。

注： [バックアップログ]は、[バックアップセット] 『21 ページ』よりも詳細に、バックアップが失敗した理由に関する情報を提供します。**バックアップセット**は、すべての現在のバックアップのリストを表示します。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ] > [インストール/削除] 『40 ページ』ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。合成フルコンポーネントがインストールされている**オフサイトサーバー** 『31 ページ』も、このページに表示されます。

注： 不良ディスクが原因でバックアップが失敗する可能性があります。問題のあるドライブ上で CHKDSK.EXE を実行することにより、エラーが解決する場合があります。

ボリュームの検索

[バックアップ] > [ボリュームの検索]

ボリュームの検索ページは、ボリュームバックアップを**同じマシン**または**別のマシンの新しい読み取り専用のドライブ文字**としてマウントします。バックアップボリュームは、他のドライブと同様に、Windows の Explorer でブラウズできます。個別のファイルまたはフォルダは、マウントされているバックアップボリュームから、書き込みアクセスがあるローカルマシンの他のフォルダにコピーできます。コンピュータがリブートされない限り、あるいは**すべてを外す**ボタンをクリックしてドライブをアンマウントしない限り、マウントされているボリュームバックアップはブラウズで使用できます。

注：イメージの検索に使用するマシンには、**イメージの場所**『44 ページ』へのアクセス権が必要です。
Windows Vista、Server 2008 以降のイメージをマウントしている場合、UAC を無効にする必要があります。

マシン ID をクリックして、マウントするボリュームバックアップを選択します。選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ]>[\[インストール/削除\]](#)『40 ページ』ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

マシン ID へのマウント

[マシン ID へのマウント](#)を選択して、バックアップイメージが作成されたマシン ID と同じマシン ID へバックアップイメージをマウントします。

選択したマシン ID へのマウント

[選択したマシン ID へのマウント](#)を選択して、バックアップイメージが作成されたマシン ID と別のマシン ID へバックアップイメージをマウントします。

マウント

フルまたは増分/差分バックアップを検索するには、リストされている日付の隣のラジオボタンをクリックします。含めるドライブを選択します。**日付の時点**で完全なイメージが、管理マシンに新しいドライブ文字としてマウントされます。**マウント**ボタンをクリックして、バックアップイメージをマウントする手順を生成します。マウント手順の実行が完了するまで、画面は自動的に 5 秒毎に更新され、マウントのステータスをレポートします。

すべてを外す

[すべてを外す](#)をクリックして、マウントされているボリュームバックアップを削除します。

フォルダの検索

[バックアップ]>[\[フォルダの検索\]](#)

[フォルダの検索](#)ページは、バックアップ中も同じ構造を維持しながら、フォルダバックアップをターゲットマシンで指定したディレクトリに復元します。[ボリュームの検索](#)『22 ページ』とは違って、このページはデータを新しいドライブ文字としてマウントできません。復元したバックアップフォルダを手動で削除します。

注：イメージの検索に使用するマシンには、**イメージの場所**『44 ページ』へのアクセス権が必要です。
Windows Vista、Server 2008 以降のイメージをマウントしている場合、UAC を無効にする必要があります。

<machine ID>への復元

選択すると、フォルダバックアップは、フォルダバックアップを行ったのと同じマシン ID に復元されます。

<select machine ID>への復元

選択すると、フォルダバックアップは、フォルダバックアップを行ったのとは別のマシン ID に復元されます。

イメージの確認

復元する

復元をクリックして、選択したフォルダバックアップを選択したマシン ID に復元します。

新しいフォルダの作成

ターゲットマシンで、フォルダバックアップが復元される場所を入力します。

(フォルダバックアップ)

フォルダバックアップの日付の隣にあるラジオボタンをクリックして、選択します。

イメージの確認

[バックアップ] > [イメージの確認]

イメージの確認 ページは、選択したボリュームまたはフォルダバックアップのワнтаイムの確認を実行します。確認スポットは、バックアップが完了し、正常に復元元として使用できることをチェックします。確認には、バックアップと元のソースファイルの比較は含まれないので、マシンにイメージの場所への読み取りアクセス権がある限り、エージェントがある他のマシンを使用してバックアップファイルを確認できます。バックアップイメージファイルが正常に**イメージの場所** 『44 ページ』 のパスにコピーされていない場合は、正常なバックアップが失敗することがあります。通常は、この問題はネットワークが遅いか、不安定な場合に発生します。遅いネットワークでは、バックアップを確認する際に**スケジュール容量** 『13 ページ』 および**スケジュールフォルダ** 『18 ページ』 の**バックアップの確認** オプションの選択を検討してください。

マシン ID をクリックして、マウントするボリュームバックアップを選択します。選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ] > [インストール/削除] 『40 ページ』 ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

手動バックアップの確認

イメージの確認 ページは、Acronis のバージョンが Kaseya が提供したバージョンである限り、Acronis によって直接作成されたイメージを確認できます。

<machine ID<からの確認

マシン ID から確認 を選択して、バックアップイメージが作成されたマシン ID と同じマシン ID のバックアップを確認します。

<select machine ID<からの確認

マシン ID の選択の確認 を選択して、バックアップイメージが作成されたマシン ID とは別のマシン ID のバックアップを確認します。

ボリュームを確認する

フルまたは増分/差分ボリュームバックアップを確認するには、リストされた日付の隣にあるラジオボタンを選択して、**ボリュームの確認** ボタンをクリックします。/harddisk:1 などの追加識別子は、イメージのタイプとディスク番号を示します。

フォルダの確認

フルまたは増分/差分フォルダバックアップを確認するには、リストされた日付の隣にあるラジオボ

タンを選択して、**フォルダの確認** ボタンをクリックします。

イメージから VM

[バックアップ] > [イメージから VM]

イメージから VM ページは、既存のボリュームバックアップイメージを次の 3 種類の仮想マシンファイルフォーマットのどれかに変換します：仮想 PC、VMware および ESX。これによって、バックアップを仮想マシン環境にインストールできます。

注： ESX オプションは、バージョン 11.5 より前の **Backup** クライアントでのみサポートされています。

マシンにイメージの場所への読み取りアクセスがある限り、エージェントがある他のマシンを使用してバックアップファイルの変換を実行するのに使用できます。

成功および失敗の**イメージから VM** 変換のログエントリは、**バックアップログ** 『22 ページ』にリストアップされます。

マシン ID をクリックして、変換するボリュームバックアップを選択します。選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ] > **[インストール/削除]** 『40 ページ』ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

注： 64 ビットイメージから VM VHD への変換はサポートされていません。

<machine ID>からの変換

マシン ID から変換 を選択して、バックアップイメージが作成されたマシン ID と同じマシン ID のバックアップを変換します。

<select machine ID>からの変換

マシン ID の選択からの変換 を選択して、別のマシン ID を使用してバックアップを変換します。

移行先仮想ハードドライブのイメージタイプ

以下の仮想ハードドライブイメージタイプの 1 つを選択します：

- **仮想 PC** - Microsoft ブランドの仮想マシンマネージャ仮想 PC が Windows OS のトップにインストールされます。
- **VMware** - VMware サーバーまたは VMware ワークステーションなどの Windows-ベースの VMware 製品と互換の VMware イメージタイプのファイルを作成します。VMware サーバーが Windows OS のトップにインストールされ、Windows によってハードウェアのパーティショニングおよびアクセスを管理します。
- **ESX** - ESX は VMware バージョンの仮想マシンハイパーバイザです。ハイパーバイザは、直接ハードウェアにインストールされ、Microsoft サーバーなどの汎用目的のサーバー OS の使用をバイパスするシン OS です。

注： ESX オプションは、バージョン 11.5 より前の **Backup** クライアントでのみサポートされています。

自動リカバリ

変換されたイメージは、ボリュームパスに書き込まれます。

変換された VM イメージが書き込まれるパスを特定します。

移行先ファイル名

作成する VM イメージファイルの一意のファイル名を入力します。

イメージの変換

変換する既存のボリュームバックアップの 1 つを選択して、**イメージの変換**をクリックして変換を
始めます。/harddisk:1 などの追加識別子は、イメージのタイプとディスク番号を示します。

自動リカバリ

[バックアップ] > [自動リカバリ]

自動リカバリ ページは、任意のボリュームバックアップイメージバックアップを作成した同じマシンに復元します。**自動リカバリ** は以下を必要とします：

- ターゲットマシンの**エージェント**は、引き続き **Kaseya Server** と通信できます。
- **保護ゾーン** 『57 ページ』は、ターゲットのマシン ID にインストールされます。

注：「安全ゾーンなしの自動復元」 『57 ページ』を参照してください。

注：フォルダバックアップを復元するには、[フォルダの検索 『23 ページ』]を使用します。**Kaseya Server** と通信できないターゲットマシンを復元する方法については、「**CD リカバリ**」 『29 ページ』または「**Universal Restore**」 『30 ページ』を参照してください。

自動リカバリによって、**一切のユーザーの介入なし**で復元する選択したマシン ID に対して、ボリュームバックアップイメージ(フル、増分、または差分)を選択できます。復元をスケジュールして、一日のある時点または繰返しスケジュールで実行できます。**繰返しスケジュールを設定して**、ランダムなユーザーが乱用しているパブリック領域のマシンを自動復元します。

サーバーとエージェントは、非表示の**保護ゾーン**パーティションを設定して、**イメージの場所** 『44 ページ』のパスから選択したバックアップイメージを自動的に復元します。設定が完了すると、エージェントは**警告なし**でマシンをリブートします。マシンは保護ゾーンのパーティションにブートし、選択したバックアップイメージを自動的に復元します。

関連項目：

- **不良を復元** 『28 ページ』
- **ダイナミックディスク復元** 『5 ページ』

スケジュール

スケジュールをクリックして、以前に選択した復元パラメータを使用して、選択したマシン ID へのボリュームバックアップイメージの復元をスケジュールします。復元は、まず**ユーザーに警告することなく**、マシンをリブートして、イメージを復元することを覚えておいてください。

日付/時間

このタスクをスケジュールする年、月、日、および分を入力します。

キャンセル

キャンセルをクリックして、選択したマシン ID のスケジュールされている復元をキャンセルします

。

すぐに復元する

すぐに復元をクリックして、選択したマシン ID にボリュームバックアップイメージをすぐに復元します。

<N><期間>ごとに繰り返し実行する

このボックスをクリックして、タスクを繰り返しタスクにします。各期間ごとの、このタスクを実行する回数を入力します。

によるスタagger

このタスクをスタガリングして、ネットワークの負荷を分配できます。このパラメータを 5 分に設定すると、各マシン ID のタスクは 5 分ごとにスタaggerされます。たとえば、マシン 1 が 10:00 に実行し、マシン 2 は 10:05 に実行し、マシン 3 は 10:10 に実行します、...

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックすると、このタスクだけを 15 分幅でスケジュールした時間に実行します。マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックを解除すると、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
-  エージェントが現在オフライン
-  エージェントが今までチェックインしたことがない
-  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
-  エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されません。[リモートコントロール]>[マシンをコントロール]ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム]>[ユーザーセキュリティ]>[スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

復元するバックアップを選択する。

選択したマシン ID で使用可能なすべてのバックアップをリストアップするドロップダウンコントロールから、復元するバックアップを選択します。

最後の復元

このマシン ID にイメージが復元された最後の時です。

次の復元

イメージの復元がスケジュールされている次の時間です。日付/時間期限切れスタンプは**赤の文字に黄色のマーカで表示されます**。

インターバル

スケジュールしたタスクが繰り返される間隔

不良を復元

以下の理由で復元が失敗する場合があります：

- **イメージの場所がローカルドライブ文字をポイントしている** - Windows のブート時に、C: から始まるドライブ文字が自動的にハードドライブに指定されます。ディスクマネージャで、これらの文字を未使用のドライブ文字に指定し直すこともできます。たとえば、D: ドライブを G: にし、**イメージの場所**のパスを G:\backups に設定したとします。リカバリブートプロセスはこのドライブ文字のマッピングを知らないため、D: をハードディスクに割り当てます。すると、復元処理は G:\backups へのアクセスを試行して、失敗します。この問題は、復元オプションを選択する前に、イメージの場所を D:\backups に設定することで解決できます。これにより、復元処理は正しく D:\backups にアクセスします。
- **USB ドライブに保存されたイメージ** - 上記の問題と同様に、リカバリブートプロセスがドライブ文字を指定する場合、USB ドライブに Windows とは違うドライブ文字を指定することがあります。復元操作を選択する前に、**イメージの場所**を新しいドライブ文字に設定することでこの問題を解決できます。これで、復元は正しく USB ドライブにアクセスします。
- **ネットワークドライブに保存されたイメージ** - リモートドライブ、またはドライブをホストしているマシンがオンになっていないか、ユーザー名やパスワードが変更されていると、リカバリブートプロセスがネットワークドライブにアクセスできないことがあります。
- **動作がエラー付きで完了** - 動作がエラー付きで完了が表示された場合、プロセスが**イメージの場所**のディレクトリにログファイルを作成できなくても、転送は続きます。この時点でリブートしても、**復元の途中なので、マシンはブートできません**。復元の完了を待っているのであれば、復元は成功するはずですが、Kaseya の**ナレッジベース**『<http://community.kaseya.com/kb-legacy/w/wiki/why-does-the-autorecovery-or-cd-recovery-report-operation-completed-with-errors.aspx>』を見て』を参照してください。
- **ネットワーク接続を確立できない** - CD リカバリでは、復元するイメージ、その場所、パスワードなどのイメージの詳細をユーザーが入力することなく、イメージの復元ができます。この情報は、マシンが Kaseya Server に接続して取得します。ただし、管理マシンと Kaseya Server の間にプロキシがある場合、または DHCP が有効でない場合、そのマシンはインターネットにアクセスするネットワーク接続を確立できず、設定を取得できないことがあります。DHCP サーバーが有効ではないか、プロキシが設定されている場合は、**CD リカバリ**のネットワーク接続情報を構成する方法がないので、**Universal Restore**『30 ページ』を使用してください。

CD リカバリ

[バックアップ] > [CDリカバリ]

CD リカバリ ページは、ボリュームバックアップイメージを、バックアップを作成したのと同じマシンまたは同じタイプのマシンに復元します。**CD リカバリ** は、ターゲットマシンが CD からブートされることを要求します。

CD リカバリ の方法は、次の場合に有用です。

- エージェントのオペレーティングシステムのネットワークドライブが破損しているため、エージェントが Kaseya Server と通信できない。
- オペレーティングシステム自体がブートできないため、エージェントがチェックインできない。
- ハードディスクが新品であり、現時点ではオペレーティングシステムがない。

ターゲットマシンは、Kaseya Server へのアクセスを提供するネットワークに物理的に接続されている必要があります。ターゲットマシンが CD からブートされると、それ以上ユーザーの介入は必要ありません。ネットワークカードは、自動的に設定されます。Kaseya Server はバックアップイメージを自動的にダウンロードして、ターゲットシステムに復元します。

次の項目を参照してください。

- **不良を復元** 『28 ページ』
- **ダイナミックディスク復元** 『5 ページ』

手順

1. **ISO ファイルの作成** - ISO イメージファイルレコードがページング部分にまだ存在しない場合、**新しい ISO の作成** ボタンをクリックして、新しい ISO イメージを作成します。このボタンをクリックするたびに、同じ ISO ファイルが別のファイル名で作成されます。リカバリ CD 上の ISO ファイル名が、Kaseya Server にマシン ID および復元元のバックアップイメージを指定します。

注： マシン ID およびバックアップイメージを指定しないままにできます。また、ISO イメージファイルに関連付けられたマシン ID およびバックアップイメージをいつでも変更することができます。これによって、管理するすべての場所に先だってリカバリ CD を作成して、配布することができます。次に、このページを使用して、ターゲットマシンを CD からブートする前に復元したいバックアップイメージを選択します。ただし、復元を開始する前にマシン ID およびバックアップイメージを指定しないと、エラーが生じます。

2. **マシン ID の選択** - ISO ファイルとマシン ID を関連付けます。マシン ID は、復元したいバックアップイメージを含む**イメージの場所** 『44 ページ』を指定しなければなりません。
3. **バックアップイメージの選択** - バックアップイメージのタイムスタンプを ISO ファイル名およびマシン ID と関連付けます。
4. **ISO イメージのダウンロード** - 作成した ISO ファイルを、ISO ファイルを CD に書き込めるワークステーションにダウンロードします。
5. **リカバリ CD の作成** - CD レコーディングアプリケーションを使用して、ISO ファイルをイメージとして CD へ書き込みます。ISO ファイルを単なるデータファイルとして CD にコピーしないでください。
6. **リカバリ CD を使用してターゲットマシンをブート** - ターゲットマシンは、Kaseya Server にアクセスできるネットワークに物理的に接続されていなければなりません。これ以上のユーザーの介入は不要です。

新しい ISO の作成

使用できるものがまだ存在しない場合は、**新しいISOの作成**をクリックして、新しいISOイメージファイルを作成します。新しいISOイメージファイルを作成すると、ページング部分に新しいレコードが作成されます。

削除する

削除アイコンをクリックして、ISOイメージファイルレコードを削除します。

編集

編集アイコンをクリックして、ISOイメージファイルレコードの**タイトル**を変更します。

共有

デフォルトでは、ISOイメージはそれを作成したユーザー専用です。ISOイメージを、他のユーザー、ユーザー役割と**共有** 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#5537.htm>』を見て』するか、あるいはISOイメージをパブリックにすることができます。

タイトル

復元しているバックアップイメージの説明的なタイトルです。

マシン ID

マシン ID を選択します。マシン ID は、復元したいバックアップイメージを含む**イメージの場所** 『44 ページ』を指定しなければなりません。

バックアップ日

復元元となるバックアップイメージを、日付によって選択します。

Universal Restore

[バックアップ] > [Universal Restore]

ユニバーサル復元ページによって、システムのバックアップイメージを復元できます。復元は別のハードウェアプラットフォームまたは仮想マシンに対して行います。**ユニバーサル復元**では、誰かがマシンをCDからブートして、リカバリウィザードでナビゲートしてバックアップイメージを復元する必要があります。手動リカバリでは、ユーザーはバックアップイメージを復元するための**イメージの場所** 『44 ページ』のパスおよび**イメージのパスワード** 『46 ページ』に関する知識が必要です。

ブートボリュームが損傷していると、システムはブートさえできません。システムのパーティションにイメージを復元するには、システムが個別のパーティションからブートすることが必要です。

このリカバリ CD がそのイメージを提供します。**画面上の指示** 『

<http://kb.acronis.com/content/4000>』を見て』に従って、リカバリ CD を作成してボリュームを復元します。

注：CD リカバリ 『29 ページ』で、ターゲットマシンが CD からブートされると、その後のユーザーの介入は必要ありません。**ユニバーサル復元**で、マシンのユーザーは、マシンが CD からブートした後、リカバリウィザードでナビゲートする必要があります。

ISO イメージファイルのビルド

ダウンロードした ISO イメージファイルを使用してリカバリブート CD を作成して、CD にバーンします。使用しているリカバリブート CD で特定のイメージファイルの復元が失敗することを発見したら、ISO イメージファイルの別のビルドのバージョンを使用して新しいリカバリブート CD を作成してみてください。リカバリブート CD に問題がある場合、ここで追加のビルドをダウンロードできます。の文中のハイパーリンクをクリックすることにより、Kaseya がサポートする ISO イメージファイルバージョンのリストを表示できます。

ダイナミックディスク復元

ダイナミックストレージには、物理的ディスクの複数ボリュームへの分割、または物理的ディスクと他の物理的ディスクと連結してどの物理的ディスクより大きなサイズのボリュームを構成することが含まれます。従来型のディスクボリュームは、「基本」ディスクボリュームと呼ばれます。

Backup は、次に示す基本およびダイナミックのバックアップと復元をサポートしています。

- 基本ディスクのバックアップ
- ダイナミックディスクのバックアップ
- 基本ボリュームの基本ディスクへの復元
- 基本ボリュームのダイナミックディスクへの復元
- ダイナミックボリュームの基本ディスクへの復元
- ダイナミックボリュームのダイナミックディスクへの復元

注 : Universal Restore 『30 ページ』はダイナミックディスクの類似のハードウェアへの復元をサポートしていますが、新しいドライバーを必要とする別のハードウェアプラットフォームへのダイナミックディスクの復元はサポートしていません。別のハードウェアプラットフォームへ復元するには、ダイナミックディスクのバックアップを基本ディスクに復元する必要があります。

ダイナミックディスクおよび GPT ディスクのディスクベースのバックアップ

バックアップクライアントの ABR10 および ABR11 は、ダイナミックディスクおよび GPT ディスクのディスクベースのバックアップをサポートしています。ABR10 より前のバージョンでは、これらのディスクタイプについて**パーティションベースのバックアップ** 『4 ページ』のみがサポートされていました。ダイナミックディスクおよび GPT ディスクのディスクベースのバックアップを復元するには、Universal Restore が必要です。ダイナミックディスクおよび GPT ディスクの自動リカバリと CD リカバリはサポートされていません。ABR11 は、Windows が GPT ボリューム（パーティション形式が GPT）にインストールされた EFI ベースシステムもサポートします。

注 : ABR11 より前の Backup クライアントは、EFI ベースのシステムをサポートしていません。GPT ボリュームに Windows がインストールされている場合、バックアップと復元に ABR11 を使用したときにのみ、復元システムがブートします。詳細については、Acronis の KB 項目『<http://kb.acronis.com/content/5684> を見て』を参照してください。

Offsite サーバー

【バックアップ】 > 【オフサイトサーバー】

オフサイトサーバー ページは、LAN からリモートの場所へバックアップイメージを安全かつ確実に転送します。オフサイトレプリケーションは、ローカルサーバーのディレクトリのファイルやサブディレクトリへのすべての変更を指定したオフサイトサーバーのディレクトリに転送します。ファイル転送は **スケジュール転送** 『39 ページ』を使ってスケジュールします。**イメージの場所** 『44

Offsite サーバー

ページ』のディレクトリは、これらの転送に含まれる**ローカルサーバー**『33 ページ』ディレクトリのサブディレクトリとして定義しなければなりません。

注：Offsite Replication『7 ページ』を参照してください。

作成する

作成をクリックして、前に選択したオプションでオフサイトサーバーを作成します。

<マシン ID を選択する>

オフサイトサーバーとして機能させたいマシン ID を選択します。

名前/IP

オフサイトサーバーの IP DNS 名または IP アドレスを入力します。

ポート

未使用のポート番号を入力します。

すべてのデータ転送を受信するディレクトリ(UNC またはローカル)へのフルパス

すべてのデータ転送を受信する、UNC またはローカルのディレクトリへのフルパスを入力します。マッピングドライブを使用してオフサイトサーバーのディレクトリを指定しないでください。たとえば \\machinename\share のように、エージェントマシンがアクセスする共有への UNC パスを指定するときには、[エージェント]>[資格情報の設定]でそのエージェントマシンに指定する資格情報を使用しての読み取り/書き込みアクセスを、共有の権限で確実に許可してください。

各エージェントにバックアップを 1 つだけ保持する

チェックした場合、クライアントが保存したセット数に関係なく、バックアップエージェント 1 つにつきバックアップセット 1 つがオフサイトサーバーに保存されます。チェックしない場合、[ボリュームのスケジュール』13 ページ』]または[フォルダのスケジュール』18 ページ』]ページの**最後の<N>セットのバックアップを保存**オプションで指定したすべてのセットが、オフサイトサーバーに保存されます。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
-  エージェントが現在オフライン
-  エージェントが今までチェックインしたことがない
-  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不動作
-  エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。[リモートコントロール] > [マシンをコントロール] ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

アイコンを削除

削除アイコンをクリックして、オフサイトサーバーレコードを削除します。

編集アイコン

編集アイコンをクリックして、ヘッダーパラメータに行の値を配置します。こうしたヘッダーの値を編集して、再度適用することができます。

再起動アイコン

再起動アイコンをクリックして、ローカルサーバーまたはオフサイトサーバーのサービスを再起動します。[リモートコントロール] > [タスクマネージャ] でローカルサーバーまたはオフサイトサーバーのプロセスリストを表示して、これが必要かどうかを判断できます。K0RepCln.exe がローカルサーバーで動作しており、K0RepSrv.exe がオフサイトサーバーで動作していることが表示されるはずです。実行していなければ、それぞれローカルサーバーまたはオフサイトサーバーの再起動アイコンをクリックします。他の兆候としては：

- 1 台のローカルサーバーは非アクティブであるが、他のサーバーは良好である：ローカルサーバーを再起動します。
- すべてのローカルサーバーが非アクティブである：オフサイトサーバーを再起動します。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

名前/IP

オフサイトサーバーが使用する DNS または英または IP アドレスです。

ポート

オフサイトサーバーが使用するポートです。

ディレクトリパス

オフサイトサーバーが使用するディレクトリパスです。

注： マップドライブを使用してオフサイトサーバーのディレクトリを指定しないでください。

合成フルサポート

チェックすると、**合成フルバックアップ** 『10 ページ』のコンポーネントがこのマシンにインストールされます。

ローカルサーバー

[バックアップ] > [ローカルサーバー]

ローカルサーバー ページは、マシン ID および**オフサイトサーバー** 『31 ページ』へのすべての新し

ローカルサーバー

いファイルの転送で使用するローカル LAN のディレクトリを定義します。オフサイトレプリケーションは、ローカルサーバーのディレクトリのファイルやサブディレクトリへのすべての変更を指定したオフサイトサーバーのディレクトリに転送します。ファイル転送は [スケジュール転送](#) 『39 ページ』を使ってスケジュールします。[イメージの場所](#) 『44 ページ』のディレクトリは、これらの転送に含まれる **ローカルサーバー** ディレクトリのサブディレクトリとして定義しなければなりません。

それぞれのローカルサーバーに対して、以下を指定します：

- ファイルを送るオフサイトサーバー。
- オフサイトサーバーへの送信を行うローカルディレクトリのパス。
- オプションの帯域制限です。

ローカルサーバーのディレクトリは、ネットワークファイルの共有のディレクトリをポイントしている UNC パスになります。マッピングドライブを使用してローカルサーバーのディレクトリを指定しないでください。ローカルサーバーには、ネットワークにアクセスできるように設定した [証明書](#) 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#352.htm> を見て』が必要です。

注： Offsite Replication 『7 ページ』を参照してください。

作成する

作成をクリックして、前に選択したオプションでローカルサーバーを作成します。

<マシン ID を選択する>

ローカルサーバーとして機能させたいマシン ID を選択します。

Offsite サーバー

バックアップファイルを転送するオフサイトサーバーを選択します。

帯域制限

- **制限なし** - ローカルサーバーは、オフサイトへ可能な限り高速でデータを転送します。
- **>N> kbps** - ローカルサーバーは、データ転送を指定速度に制限します。

Offsite replication サーバーに送るディレクトリ (UNC またはローカル) へのフルパス

すべてのデータ転送を送信する、UNC またはローカルのディレクトリへのフルパスを入力します。ローカルサーバーは、このディレクトリのコンテンツ全体をオフサイトサーバーへ送信します。マッピングドライブを使用してローカルサーバーのディレクトリを指定しないでください。たとえば `\\machinename\share` のように、エージェントマシンがアクセスする共有への UNC パスを指定するときには、[エージェント] > [資格情報の設定] でそのエージェントマシンに指定する資格情報を使用しての読み取り/書き込みアクセスを、共有の権限で確実に許可してください。

ステータスのチェック

ステータスのチェックをクリックして、オフサイトへの書き込みが残っているデータの量をすぐにチェックします。通常は、このチェックはアクティブな転送サイクルの終わりでのみ実行されます。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

- 🟢 オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- 🟢 エージェントがオンライン
- 🟢 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- 🟡 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- ⬜ エージェントが現在オフライン
- 🟡 エージェントが今までチェックインしたことがない
- 🔴 エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不動作
- 🔴 エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。[リモートコントロール] > [マシンをコントロール] ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

アイコンを削除

削除アイコンをクリックして、ローカルサーバーレコードを削除します。

編集アイコン

編集アイコンをクリックして、ヘッダーパラメータに行の値を配置します。こうしたヘッダーの値を編集して、再度適用することができます。

再起動アイコン

再起動アイコンをクリックして、ローカルサーバーまたはオフサイトサーバーのサービスを再起動します。[リモートコントロール] > [タスクマネージャ] でローカルサーバーまたはオフサイトサーバーのプロセスリストを表示して、これが必要かどうかを判断できます。K0RepCln.exe がローカルサーバーで動作しており、K0RepSrv.exe がオフサイトサーバーで動作していることが表示されるはずです。実行していなければ、それぞれローカルサーバーまたはオフサイトサーバーの再起動アイコンをクリックします。他の兆候としては：

- 1 台のローカルサーバーは非アクティブであるが、他のサーバーは良好である：ローカルサーバーを再起動します。
- すべてのローカルサーバーが非アクティブである：オフサイトサーバーを再起動します。

ステータス

ローカルサーバーのステータスです。**それぞれのアクティブなサイクルの終わり**で、システムはローカルサーバーをチェックして、**書き込みが残っている**データの量をレポートします。

- **アクティブ** - 🟢 - ローカルサーバーはオフサイトサーバーへ接続され、変更があるとファイルをオフサイトサーバーへ送信します。
- **中断** - 🟡 - ローカルサーバーは、**スケジュール転送** 『39 ページ』 で設定したスケジュールに従って中断されています。
- **非アクティブ** - 🔴 - ローカルサーバーは、オフサイトサーバーに接続できません。

Offsite サーバー

このローカルサーバーからバックアップファイルが送信されているオフサイトサーバーの名前です。

BW 制限

このローカルサーバーに指定されている帯域制限です。

ディレクトリパス

オフサイトサーバーへデータを送信しているローカルサーバーのディレクトリです。

注： マップドライブを使用してローカルサーバーのディレクトリを指定しないでください。

最後に更新したステータス

ローカルサーバーが最後に更新された日付と時間です。

Offsite 警報

[バックアップ] > [オフサイト警報]

オフサイト警報 ページは、指定したローカルサーバーがそのオフサイトサーバーに接続できない場合に警報を作成します。アラームが生成されるのは、それぞれのローカルサーバーに対して **スケジュール転送** 『39 ページ』 が許可した時間の間だけです。定義すると、この警報をこのページに表示されているマシン ID にすぐに適用できます。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。このページを表示するには、[バックアップ] > [ローカルサーバー] 『33 ページ』 でマシン ID をローカルサーバーとして定義しなければなりません。

注： Offsite Replication 『7 ページ』 を参照してください。

Offsite 警報を作成するには

- これらのチェックボックスのいずれかをチェックすると、警報条件の発生時に、対応するアクションが実行されます。
 - **アラーム**を作成
 - **チケット**を作成
 - **スクリプト**を実行
 - **E メール受信者**
- 追加の E メールパラメータを設定します。
- 追加 Offsite 警報専用パラメータを設定します。
- 警報を適用マシン ID をチェックします。
- [適用] ボタンをクリックします。

Offsite 警報をキャンセルするには

- マシン ID チェックボックスを選択します。
- [クリア] ボタンをクリックします。

マシン ID の横にリストアップされていた警報情報が取り除かれます。

警報情報を E メールや手順に渡す

以下のタイプの Offsite 警報 E メールを送信、フォーマットできます：

- **Offsite 失敗**

注： この Eメールのアラームフォーマットを変更すると、すべてのオフサイト警報 Eメールのフォーマットが変更されます。

次の変数は、フォーマット付きの E メール警報に含めることが可能であり、警報に割り当てられたエージェント手順に送られます。

E メール内	手順内	説明
<で>	#at#	警報時間
<db-view.column>	利用不可	データベースからの view.column を含みます。たとえば、警報を生成するマシンのコンピュータ名を E メールに含めるには、<db-vMachine.ComputerName>を使用します。
<gr>	#gr#	グループ ID
<id>	#id#	マシン ID
<op>	#op#	オフサイトレプリケーションサーバー ip:ポート
	#subject#	E メールメッセージのタイトルテキスト、警報の反応として E メールが送信された場合
	#body#	E メールメッセージの本文テキスト、警報の反応として E メールが送信された場合

アラームの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとアラームが作成されます。アラームは、[モニター]>[ダッシュボードリスト]、[モニター]>[アラームサマリ]、および[情報センター]>[レポート]>[ログ]>[アラームログ]に表示されます。

チケットの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとチケットが作成されます。

スクリプトを実行する

チェックした場合、警報条件が発生するとエージェント手順が実行されます。実行するエージェント手順を選ぶには、[エージェント手順の選択](#)リンクをクリックしなければなりません。[このマシン ID](#)リンクをクリックすることで、マシン ID の特定レンジでエージェント手順を作動させることができます。指定するこれらのマシン ID を、警報条件が発生したマシン ID と一致させる必要はありません。

E メール受信者

チェックした場合、警報条件が発生すると、指定の E メールアドレスに E メールが送信されます。

- 現在ログオンしているユーザーの E メールアドレスが [E メール受信者](#) フィールドに表示されます。これは、[システム]>[プリファレンス]のデフォルト値です。
- [E メールをフォーマット](#) をクリックして、[E メール警報をフォーマット](#) ポップアップウィンドウを表示します。このウィンドウでは、警報条件が発生したときにシステムが生成する E メール表示のフォーマットを指定できます。このオプションは、マスター役割ユーザーだけを表示します。

Offsite 警報

- **現在のリストに追加**ラジオボタンオプションを選択し、**適用**をクリックすると、警報設定が適用され、以前に指定された E メールアドレスはそのまま、指定された E メールアドレスが加えられます。
- **リストの置き換え**ラジオボタンオプションを選択し、**適用**をクリックすると、警報設定が適用され、指定された E メールアドレスが、現存の E メールアドレスと置き換わります。
- **取り除く**をクリックすると、**どの警報パラメータも修正することなく**全 E メールアドレスが取り除かれます。
- E メールは、警報で指定された E メールアドレスに Kaseya Server から直接送信されます。**[発信元アドレス]**を設定するには、[システム]>[アウトバウンド E メール]を使用します。

適用する

選択したマシン ID にパラメータを適用するために**適用**をクリックします。情報がマシン ID のリストに正しく適用されていることを確認します。

クリア

クリア をクリックして、選択したマシン ID からすべてのパラメータ設定を削除します。

Offsite 警報パラメータ

- **<N>期間ごとにチェック** - ローカルサーバーとオフサイトサーバーの間の接続をチェックする頻度を指定します。
- **<N>期間、接続が失敗した場合にアラーム** - 接続が失敗している期間が指定期間を超えた場合、アラームをトリガーします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

- 🟢 オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- 🟢 エージェントがオンライン
- 🟢 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- 🟡 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- ⚪ エージェントが現在オフライン
- 🟡 エージェントが今までチェックインしたことがない
- 🔴 エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- 🔴 エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。**[リモートコントロール]>[マシンをコントロール]**ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム]>[ユ

ーザーセキュリティ]>[スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

ATSE

マシン ID または SNMP デバイスに指定した ATSE レスポンスコード：

- A = **A**ラームを作成
- T = **T**ケットを作成
- S = エージェント手順を作動
- E = **E**メール受信者

E メールアドレス

通知が送信される E メールアドレスのコンマ区切りのリスト。

インターバル

ローカルサーバーとオフサイトサーバーの間の接続のチェックを待つ期間の数です。

期間

警報をトリガするまでに待機する期間の数。

転送をスケジュールする

[バックアップ] > [転送のスケジュール]

[**転送のスケジュール**] ページでは、Kaseya Server が使用するタイムゾーンに基づいて、各ローカルサーバーがファイルをオフサイトサーバーに送信する時刻を指定します。曜日によって、異なる開始時間と終了時間を設定することもできます。

たとえば、転送を火曜日の終夜にスケジュールするには、[**火曜日**]の[**開始時間**]を 6:00 pm に、[**水曜日**]の[**終了時間**]を 6:00 am に設定します。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。このページを表示するには、[バックアップ]>[ローカルサーバー]『33 ページ』でマシン ID をローカルサーバーとして定義しなければなりません。

適用する

選択したローカルサーバーに週次の設定を適用するには、**適用**をクリックします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。

インストール/削除：バックアップ

- 🟡 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- 🟡 エージェントが今までチェックインしたことがない
- 🟢 エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- 🔴 エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。[リモートコントロール] > [マシンをコントロール] ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

編集アイコン

編集アイコンをクリックして、ヘッダーパラメータに行の値を配置します。こうしたヘッダーの値を編集して、再度適用することができます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

平日 開始-終了

バックアップファイルがそれぞれのローカルサーバーからそのオフサイトサーバーへ転送される、それぞれの平日に対して開始時間と終了時間を表示します。

インストール/削除：バックアップ

[バックアップ] > [インストール/削除]

[インストール/削除] ページでは、選択したマシン ID で **Backup** (KBU) のインストールまたはアンインストールを実行します。管理マシンの **Backup** の各インストールにつき、**Backup** ライセンスを 1 つ使用します。利用可能なライセンスの数は、購入したライセンスの合計数、および[システム] > [ライセンスマネージャ] 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#2924.htm>』を見て』を使用して各グループ ID 割り当てたライセンスの合計数によって決まります。**Backup** のライセンスは、サーバーとワークステーションで購入と割り当てが別々に行われます。

- 管理マシンに他のバックアップ製品がインストールされている場合、**Backup** で問題が発生する可能性があります。**Backup** を使用してボリュームやフォルダをバックアップする前に、他のバックアップ製品をアンインストールします。他のバックアップ製品がインストールされていると、**バックアップステータス** 『12 ページ』 ページに警告メッセージが表示されます。
- サポートされるエージェントのオペレーティングシステムのタイプについては、**システム要求事項** 『<http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9010000/reqs/index.asp#home.htm>』を見て』を参照してください。
- バックアップには、追加のエージェント機能が必要なので、バックアップのインストールの前にエージェントの更新を促されます。

バックアップクライアントのインストール

Backup 6.5 では、旧バージョンの Acronis よりも高速で信頼性の高いバックアップを行う Acronis Backup & Recovery 11.5-43916 を使用します。旧バージョンの Acronis に何らかの問題があった場合

は、**Backup** 6.5 へのアップグレードが推奨されます。

暗号化、合成バックアップ、イメージ変換など、**Backup** のすべての機能を使用するには、エンドポイントに Acronis TrueImage 9.7 以降が必要です。

顧客が最新の **Backup** クライアントをインストールする必要はありません。**Backup** は、Acronis TrueImage のクライアントバージョン 9.7、10.0、および新クライアントバージョン 11.5-43916 がインストールされた混在環境で動作します。既存のクライアントを ABR11.5-43916 に更新しなくても、**Backup** 6.5 にアップグレードできます。新規クライアントのインストールには、ABR11.5-43916 が使用されます。

警告： Acronis 9.1 および 9.5 のエンドポイントは、**Backup** 6.5 ではサポートされていません。Acronis バージョン 9.1 または 9.5 をアンインストールし、新しい Acronis 11.x クライアントをインストールし直すことが強く推奨されます。

新しいビルドにバグ修正が含まれる場合があります。[**最新バージョン/バージョン**]列には、利用可能な最新バージョンが表示されます。**Backup** クライアントを最新バージョンに更新するには、マシンを選択し、[**インストール/再インストール**]ボタンを使用して新しいインストールをスケジュールする必要があります。

注： エンドポイントのマシンが Acronis TrueImage 9.7 から ABR 11.5-43916 に更新された場合、新しいフルバックアップがスケジュールされます。

Kaseya のエージェントのバージョンの考慮

9.7 以降のクライアントでのバックアップをキャンセルするには、Kaseya のエージェントをバージョン 6.5.0.0 以降に更新する必要があります。Kaseya は、新しいバックアップクライアントのソフトウェアがあるすべてのエージェントを更新することを推奨いたします。[エージェント]>[バージョンのアップグレード]>[**エージェントの更新**]『

<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#549.htm> を見て』ページの[**エージェントが次の場合でも更新を強制**]オプションを使用して、強制的にエージェントを 6.5.0.0 以降に更新します。

注： (バージョン 6.x) VSA およびそのエージェントは、デフォルトでバックアップのキャンセルをサポートしています。

インストールにはリブートが必要

バックアップは、使用中でも、ブートボリュームを含めて、すべてのボリュームをバックアップします。**バックアップ**は、これを低レベルドライバの使用を通じて達成します。そのように、**バックアップクライアント**は、**そのインストールを完了するためにリブートを必要とします**。

- インストールの完了後、ユーザーがログインしている場合、システムはユーザーに**すぐにリブートするか、作業を継続するか**を尋ねます。ダイアログに 5 分以内に応答しないと、**作業を継続する**と想定されます。だれもログインしていなければ、システムはすぐにリブートします。
- **インストール後にリブートしない**チェックボックスをクリックして、このダイアログボックスの表示を避けられます。
- **すぐにリブート** ボタンは、マシン ID の隣の欄の**インストール** 内に表示されます。これは、**インストール後にリブートしない** がチェックされているか、対象マシンの **すぐにリブート/作業を継続する** ダイアログボックスがタイムアウトになったときに表示されます。
- 誰もログインしていないときにサーバーにバックアップをインストールすると、バックアップのインストールが完了した時点でサーバーがリブートされます。

アクション

- **インストール/再インストール** - クリックすると、以前に選択したオプションを使用して、選択したマシン ID でバックアップソフトウェアのインストールまたはアンインストールが実行されます。
- **キャンセル** - クリックすると、選択したマシン ID でこのタスクの実行がキャンセルされます。
- **インストールの確認** - クリックして、選択したマシン ID にバックアップソフトウェアをインストールすることを確定します。誰かが管理されるマシンのバックアップソフトウェアを削除したことが疑われる場合に、これを使用します。
- **削除** - クリックすると、選択したマシン ID からバックアップソフトウェアがアンインストールされます。低レベルドライバと削除して、アンインストールを完了するには、マシンでのリブートが必要です。

オプションのインストール

- **日付/時間** - このタスクをスケジュールする年、月、日、時、および分を入力します。
- **<select machine ID>からバックアップの設定をコピー** - このリンクをクリックすると、既存のマシンのバックアップの構成とスケジュールが、選択したすべてのマシンにコピーされます。
- **インストーラがサーバーから送信される場合に警告** - チェックした場合、バックアップファイルが Kaseya Server からインストールされると警告メッセージが表示されます。バックアップのインストールファイルは 40MB を超えます。Kaseya Server から LAN の各マシンへのファイル転送を行わないようにするには、[パッチ管理] > [ファイルソース] 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#366.htm>』を見て』を使用します。[次の場所にあるファイル共有]オプションを選択します。設定すると、Kaseya Server は LAN ファイル共有に単一コピーを書き込みます。バックアップのインストールは、その場所から LAN 上のすべての管理されるマシンに対して実行されます。
- **順次実行 - 間隔** - 時間をずらしてこのタスクを順次実行することで、ネットワークの負荷を分散できます。このパラメータを 5 分に設定すると、各マシン ID のタスクは 5 分ごとにスタagger されます。たとえば、マシン 1 が 10:00 に実行し、マシン 2 は 10:05 に実行し、マシン 3 は 10:10 に実行します、...
- **マシンがオフラインの場合は省略する** - チェックした場合、スケジュールした時刻から 15 分の範囲内でのみこのタスクが実行されます。マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックを解除すると、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。
- **インストール後にリブートしない** - チェックした場合、バックアップソフトウェアのインストール後に、選択したマシン ID はリブートされません。
- **バックアップ管理コンソールをインストールする** - チェックした場合、**Backup** クライアントのインストール時に、選択したマシンへのバックアップ管理コンソールのインストールが含まれます。バックアップ管理コンソールを使用すると、マシンユーザーは VSA から独立して、バックアップ、マウント、および復元のタスクを実行できます。

テーブルの列

- **すべて選択/すべて選択解除** - [すべて選択]リンクをクリックすると、ページのすべての行がチェックされます。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。
- (チェックインステータス) - これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイック表示ウィンドウが表示されます。
 - ⑥ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています

- エージェントがオンライン
 - エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
 - エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
 - エージェントが現在オフライン
 - エージェントが今までチェックインしたことがない
 - エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
 - エージェントが延期された
- **Machine.Group ID** - VSA のマシンの一意のマシン ID/グループ ID/組織 ID 名
 - **インストール済み** - この列は、選択したマシンにインストールしたソフトウェアのステータスを表示します。
 - リブート待ち。[すぐにリブート]ボタンがマシン ID の横の[インストール]列に表示されるのはインストール後にリブートしないがチェックされているか、対象マシンの[すぐにリブート/作業を継続する]ダイアログボックスがタイムアウトした場合です。
 - インストール失敗 - 未署名のドライバインストールポリシーがインストールをブロックしました
 - インストールに失敗
 - インストール保留中
 - 保留を削除
 - 保留を削除
 - ポリシー保留をリセット
 - バックアップソフトウェアが正常にインストールされた日付と時間
 - 未署名ドライバポリシーのリセット
 - バックアップのサポートに必要なエージェントの更新
 - 確認失敗
 - Window v3 以上のインストーラが必要
 - **最新バージョン/バージョン** - 管理マシンにインストールされている Acronis バックアップソフトウェアのバージョンを表示します。新しいバージョンが使用可能な場合、[更新が使用可能]も表示されます。列の上部の[最新バージョン]には、使用可能なバックアップソフトウェアの最新のバージョンが表示されます。ハイパーリンク付きのバージョン番号をクリックすると、Acronis インストーラが Kaseya Server にダウンロードされ、このバージョンがインストール可能になります。**Backup** クライアントを最新バージョンに更新するには、マシンを選択し、[インストール/再インストール]ボタンを使用して新しいインストールをスケジュールします。
- 注：**新しいバージョンがダウンロード可能になった後、クライアントに配置する前に、ハイパーリンク付きのバージョン番号をクリックしてインストーラを **Kaseya Server** にダウンロードする必要があります。この操作は、各新リリースにつき 1 回のみ必要です。
- **確認済み** - 次のいずれかが表示されます。
 - バックアップソフトウェアがマシン ID にインストールされて確認された日付と時間です。
 - **確認保留** - [キャンセル]ボタンが表示されます。
 - **未確認** - [確認]ボタンが表示されます。
 - **コンソール** - チェックされている場合、バックアップ管理コンソールがインストールされています。コンソールは、最新のバックアップクライアントを使用してのみエンドポイントにインストールできます。

イメージの場所

- **タイプ** - バックアップソフトウェアがインストールされているマシンのタイプ。
 - ワークステーション
 - サーバー

注：[システム] > [ライセンスマネージャ] 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#2924.htm>』を見て 『>[ライセンス]』タブには、利用可能なサーバーバックアップライセンスおよびワークステーションバックアップライセンスの数が表示されます。

イメージの場所

[バックアップ] > [イメージの場所]

イメージの場所のページは、ボリュームバックアップおよびフォルダバックアップが保存される、ローカルネットワークまたはローカルドライブのフォルダを指定します。通常は、これは \\LAN_Server\Backups\などの LAN ベースのファイルサーバーのパスです。ただし、それは USB ドライブなどのマシン上の他の物理的ドライブまたは共有ネットワークドライブと同様に単純でもあります。

- ボリュームおよびフォルダのバックアップパスでは、個別のパスを指定します。
- バックアップイメージを、バックアップしている同じドライブに保存することはできません。
- マップされたドライブ文字はサポートされません。パスは、フル UNC パスまたはローカル物理ドライブでなければなりません。
- たとえば \\machinename\share のように、エージェントマシンがアクセスする共有への UNC パスを指定するときには、[エージェント] > [資格情報の設定]でそのエージェントマシンに指定する資格情報を使用しての読み取り/書き込みアクセスを、共有の権限で確実に許可してください。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ] > **[インストール/削除]** 『40 ページ』ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

テープドライブ

一部のテープドライブのドライバーは、ドライブ文字が割り当てられたリムーバブルドライブとして Windows に表示されます。この場合、割り当てられたドライブ文字を使用したテープドライブへのバックアップはサポートされています。ドライブをこのように構成する方法については、デバイスのベンダーにお問い合わせください。この機能をサポートしていないテープドライブもあります。

ローカルサーバーとイメージ位置

オフサイトサーバー 『31 ページ』を使用してレプリケーションを構成しようとしている場合、**イメージの場所** 『44 ページ』ディレクトリを**ローカルサーバー** 『31 ページ』ディレクトリのサブディレクトリとして定義する必要があります。

注：「バックアップフォルダ構造」 『6 ページ』を参照してください。

設定

設定をクリックして、選択したマシン ID に使用するバックアップのイメージ場所を設定します。

警告：この変更を必ず行うと決定するまでは、このイメージ場所を変更しないでください。既存のバックアップに対するイメージ場所を変更すると、新しい、フル、非合成バックアップのスケジューリングが強制されます。オフサイトサーバーが定義されている場合は、合成フルバックアップが有効になっているときでも、新しい非合成のフルバックアップをオフサイトサーバーに転送する必要があります。前のフルおよび増分バックアップのファイルが新しいイメージ場所へ移動されたら、次にフルバックアップがスケジュールされるときに新しいフルバックアップが作成されます。前のフルおよび増分バックアップのファイルが新しいイメージ場所で見つからない場合、次に増分バックアップがスケジュールされるときに新しいフルバックアップが作成されます。

クリア

クリア をクリックして、選択したマシン ID からイメージ場所の設定を削除します。

注：マシンのイメージの場所をクリアすると、そのマシンに対してスケジュール済みのバックアップがすべて削除されます。

ボリュームパス/フォルダパス

バックアップを保存するフォルダパスを入力します。

自動更新

このチェックボックスを選択すると、ページング部分が 5 秒毎に更新されます。

チェック

必要なマシン ID をチェックして、**チェック** ボタンをクリックして、マシンのイメージ場所ディレクトリで使用可能な空きスペースの量をチェックできます。また、このチェックを使用して、**証明書の確認**をクライアントに対して正しく設定して、イメージ場所にアクセスします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
-  エージェントが現在オフライン
-  エージェントが今までチェックインしたことがない
-  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
-  エージェントが延期された

イメージのパスワード

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。[リモートコントロール] > [マシンをコントロール] ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

ボリュームパス/フォルダパス

それぞれのマシン ID に対して指定したフォルダパスです。

空きスペース

それぞれのマシン ID のイメージ場所として使用可能な空きスペースです。

エージェント

ABR11 Backup クライアントにのみ適用されます。オプションで、このページで指定した UNC パスにアクセスするための別の資格情報を設定します。これは、バックアップクライアントが使用する **エージェント資格情報** 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#352.htm>』を見て』が対応しないドメインに、イメージの場所がある場合にのみ必要です。

イメージのパスワード

[バックアップ] > [イメージのパスワード]

イメージのパスワード ページは、バックアップファイルにアクセスするパスワードを設定します。フォルダバックアップおよびボリュームバックアップのすべての .tib ファイルは、それぞれのマシン ID に対して独自のパスワードを使用して、**パスワード保護**されています。このパスワードは、それぞれのマシン ID に対して一定のままです。希望するようにパスワードを設定できます。複数のマシンで、同じパスワードを設定できます。

警告： このシステム外にバックアップファイルを保持することを決定した場合は、各マシン ID のパスワードを印刷してください。印刷しないと、後でバックアップを復元できなくなります。このパスワードを失うと、Kaseya ではバックアップファイルを復元できません。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ] > [インストール/削除] 『40 ページ』 ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

パスワードログの表示

マシン ID に指定されたバックアップイメージのパスワードの履歴を表示します。

変更

変更 をクリックして、選択したマシン ID のバックアップイメージのパスワードを **パスワードの作成** および **パスワードの確認** に入力したパスワードに変更できます。

警告：この変更を必ず行うと決定するまでは、このパスワードを変更しないでください。既存のバックアップに対するパスワードを変更すると、新しい、フル、非合成バックアップのスケジューリングが強制されます。オフサイトサーバーが定義されている場合は、合成フルバックアップが有効になっているときでも、新しい非合成のフルバックアップをオフサイトサーバーに転送する必要があります。次回、フルバックアップがスケジュールされると、新しいパスワードの使用が始まります。

パスワードを有効にする

チェックすると、バックアップイメージはパスワード保護されます。空白にすると、バックアップイメージはパスワード保護されません。

パスワードの作成/パスワードの確認

バックアップイメージのパスワードを入力します。

パスワードを推奨

パスワードを推奨をクリックすると、**パスワードの作成**および**パスワードの確認**にランダムに生成された英数字の文字列が入力されます。

適用する

適用をクリックして、暗号化オプションを適用します。

イメージの暗号化を有効にする

チェックした場合、.tib ファイルの内容を暗号化して、追加のセキュリティを提供します。暗号化が、パスワードと連結されて有効になります。128、192、および 256 ビットの暗号鍵を使用する、新暗号規格(AES)の 3 つのオプションがあります。

- aes 128
- aes 192
- aes 256

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
-  エージェントが現在オフライン
-  エージェントが今までチェックインしたことがない
-  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
-  エージェントが延期された

フォルダバックアップ

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されません。[リモートコントロール]>[マシンをコントロール]ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム]>[ユーザーセキュリティ]>[スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

パスワード

現在、それぞれのマシン ID に指定されているバックアップイメージのパスワードです。

暗号化

.tib ファイルを作成するのに使用する暗号化標準です。

フォルダバックアップ

[バックアップ]>[フォルダバックアップ]

フォルダバックアップページは、それぞれのマシン ID に対して**スケジュールフォルダ**『18 ページ』によってバックアップされるファイルやフォルダを指定します。ファイルやフォルダはいくらでもバックアップできます。1 度にファイル、またはフォルダ 1 つのみ指定できます。

以下のフォルダから、バックアップされている特定のファイルを除外することもできます。たとえば、誰かの[My Documents]フォルダをバックアップするときに、*.avi、*.mp3、および*.bmp のファイルを除外できます。

フォルダバックアップはセクターレベルのバックアップを実行します。セクターレベルのコピーは、システムがロックされていたり、ファイルが使用中でもバックアップできます。ですから安全バックアップを 1 日のいつでもできます。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ]>[インストール/削除]『40 ページ』ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

ディレクトリを含める

ディレクトリを含めるをクリックして、**ファイルまたはフォルダを含める**の設定を選択したマシン ID に適用します。

注： c:、c:\などのドライブのルートディレクトリを含めることはできません。バックアップ中に、エラーが起こります。

ファイルまたはフォルダを含める

選択したマシン ID にバックアップしたいファイルまたはフォルダへのフルパスを指定します。パスは、**マップドライブまたはネットワークパスではなくて**、ローカルドライブを指していなければなりません。1 度にファイル、またはフォルダ 1 つのみ指定できます。パスにはコンマを含めることができます。たとえば、パス C:\Program Files\Company, Inc\を入力できます。

ファイルの除外

バックアップから除外するファイルまたはファイルのクラスを指定します。パスは許可されません。ワイルドカードあり、なしのファイル名だけが可能です。例：*.jpg、outlook.pst。**ファイルの除外**をクリックして、選択したマシン ID にこれらの除外を適用します。1 度に指定できるのは、1 つのファイルまたはファイルのクラスだけです。

削除...

削除...をクリックして、選択したマシン ID から削除するフォルダやファイルを選択できるダイアログボックスを表示します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
-  エージェントが現在オフライン
-  エージェントが今までチェックインしたことがない
-  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
-  エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。[リモートコントロール] > [マシンをコントロール] ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

パス

各マシン ID に対してバックアップしているファイルやフォルダのパスをリストアップします。バックアップから除外されるファイルまたはファイルのクラスは**赤色のテキストで表示されます**。

バックアップ警報

[バックアップ] > [バックアップ] [警報]

[モニター] > [エージェントのモニタリング] > [警報]

- [警報機能の選択] ドロップダウンリストから[バックアップ警報]を選択します。

バックアップ警報

[**警報 - バックアップ警報**] ページでは、管理マシン上でバックアップイベントが発生したときに警報を送出するように設定できます。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ] > [**インストール/削除**] 『40 ページ』 ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

バックアップ警報を作成するには

- これらのチェックボックスのいずれかをチェックすると、警報条件の発生時に、対応するアクションが実行されます。
 - **アラーム**を作成
 - **チケット**を作成
 - **スクリプト**を実行
 - **E メール**受信者
- 追加の E メールパラメータを設定します。
- 追加バックアップ警報専用パラメータを設定します。
- 警報を適用マシン ID をチェックします。
- [**適用**] ボタンをクリックします。

パッチ警報をキャンセルするには

- マシン ID チェックボックスを選択します。
- [**クリア**] ボタンをクリックします。
マシン ID の横にリストアップされていた警報情報が取り除かれます。

警報情報を E メールや手順に渡す

以下のタイプのバックアップ警報 E メールを送信、フォーマットできます：

- **バックアップ失敗**
- **マシンがオフラインなら、繰返しバックアップを省略**
- **バックアップは正常に完了**
- **フルバックアップは正常に完了**
- **イメージ場所の空きスペース低下**
- **バックアップの確認失敗**

注： この E メールアラームのフォーマットを変更すると、すべてのバックアップ警報 Eメールのフォーマットが変更されます。

次の変数は、フォーマット付きの E メール警報に含めることが可能であり、警報に割り当てられたエージェント手順に送られます。

E メール内	手順内	説明
<で>	#at#	警報時間
<be>	#be#	バックアップ失敗エラーメッセージ
<bt>	#bt#	バックアップのタイプ
<db-view.column>	利用不可	データベースからの view.column を含みます。たとえば、警報を生成するマシ

		ンのコンピュータ名を E メールに含めるには、 <db-vMachine.ComputerName>を使用します。>
<gr>	#gr#	グループ ID
<id>	#id#	マシン ID
<im>	#im#	バックアップイメージ場所
<mf>	#mf#	残り空きスペースメガバイト
<sk>	#sk#	バックアップスキップカウント
	#subject#	E メールメッセージのタイトルテキスト、 警報の反応として E メールが送信された場合
	#body#	E メールメッセージの本文テキスト、 警報の反応として E メールが送信された場合

アラームの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとアラームが作成されます。アラームは、[モニター]>[ダッシュボードリスト]、[モニター]>[アラームサマリ]、および[情報センター]>[レポート]>[ログ]>[アラームログ]に表示されます。

チケットの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとチケットが作成されます。

スクリプトを実行する

チェックした場合、警報条件が発生するとエージェント手順が実行されます。実行するエージェント手順を選ぶには、[エージェント手順の選択](#)リンクをクリックしなければなりません。[このマシン ID](#)リンクをクリックすることで、マシン ID の特定レンジでエージェント手順を作動させることができます。指定するこれらのマシン ID を、警報条件が発生したマシン ID と一致させる必要はありません。

E メール受信者

チェックした場合、警報条件が発生すると、指定の E メールアドレスに E メールが送信されます。

- 現在ログオンしているユーザーの E メールアドレスが **E メール受信者** フィールドに表示されます。これは、[システム]>[プリファレンス]のデフォルト値です。
- **E メールをフォーマット** をクリックして、**E メール警報をフォーマット** ポップアップウィンドウを表示します。このウィンドウでは、警報条件が発生したときにシステムが生成する E メール表示のフォーマットを指定できます。このオプションは、マスター役割ユーザーだけを表示します。
- **現在のリストに追加** ラジオボタンオプションを選択し、**適用** をクリックすると、警報設定が適用され、以前に指定された E メールアドレスはそのまま、指定された E メールアドレスが加えられます。
- **リストの置き換え** ラジオボタンオプションを選択し、**適用** をクリックすると、警報設定が適用され、指定された E メールアドレスが、現存の E メールアドレスと置き換わります。
- **取り除く** をクリックすると、**どの警報パラメータも修正することなく** 全 E メールアドレスが取り除かれます。

バックアップ警報

- Eメールは、警報で指定されたEメールアドレスにKaseya Serverから直接送信されます。[発信元アドレス]を設定するには、[システム]>[アウトバウンドEメール]を使用します。

適用する

選択したマシンIDにパラメータを適用するために**適用**をクリックします。情報がマシンIDのリストに正しく適用されていることを確認します。

クリア

クリア をクリックして、選択したマシンIDからすべてのパラメータ設定を削除します。

バックアップ警報パラメータ

システムが選択したマシンIDに対する4つの異なるバックアップ警報条件の1つをシステムが検出するたびに、システムはアラームをトリガします。

- **バックアップ完了** - どれかのボリュームまたはフォルダバックアップが正常に完了したら警報する。
- **フルバックアップ完了** - どれかのフルボリュームまたはフォルダバックアップが正常に完了したら警報する。
- **バックアップ失敗** - 何らかの理由で完了する前にボリュームまたはフォルダのバックアップが停止した場合は警報する。マシンがバックアップ中にオフになるか、**イメージの場所**『44ページ』が参照するファイルサーバーへのネットワーク接続が失われるため、通常はバックアップが失敗します。
- **マシンがオフラインのため繰り返しバックアップを<N>回省略 - [スケジュールのボリューム]**『13ページ』で**[マシンがオフラインなら、省略する]**が設定されており、マシンがオフラインであるために、指定回数だけバックアップが再スケジュールされた場合に警報を発生します。スケジュールされたボリュームバックアップの時点でマシンがオフになっているので、この警報を使用して、バックアップはまだ始まっていないことを通知します。
- **イメージ場所の空きスペースは<N>MB以下** - バックアップを保存するために使用しているハードディスクの空きスペースが指定した値を下回った場合に警報を発生します。

3つの追加パラメータを設定できます：

- **追加** - 既存のパラメータをクリアしないで**適用**を選択するときは、警報パラメータを選択したマシンIDに追加します。
- **置き換え** - **適用**を選択する場合、選択したマシンIDで警報パラメータを置き換えます。
- **削除** - 選択したマシンIDからの警報パラメータをクリアします。まずマシンIDグループの隣にある編集アイコンをクリックして、クリアしたい警報パラメータを選択します。

注：それぞれのバックアップ警報タイプに対して異なる警報Eメールアドレスを指定することもできます。これによって、バックアップ完了警報をユーザーに送信し、失敗だけをユーザーに送信します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

- ⑥ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています

- エージェントがオンライン
- 👤 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- 🕒 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- 🔒 エージェントが今までチェックインしたことがない
- 🛑 エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- 🕒 エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。[リモートコントロール] > [マシンをコントロール] ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

ATSE

マシン ID または SNMP デバイスに指定した ATSE レスポンスコード：

- A = アラームを作成
- T = チケットを作成
- S = エージェント手順を作動
- E = E メール受信者

E メールアドレス

通知が送信される E メールアドレスのコンマ区切りのリスト。

任意の完了

チェックすると、このマシン ID のバックアップが完了するとアラームがトリガされます。

フルの完了

チェックすると、このマシン ID のフルバックアップが完了するとアラームがトリガされます。

バックアップ失敗

チェックすると、このマシン ID のバックアップが失敗するとアラームがトリガされます。

バックアップをスキップ

チェックすると、このマシン ID のバックアップがスキップされるとアラームがトリガされます。

圧縮

[バックアップ] > [圧縮]

圧縮 ページは、バックアップに使用する圧縮レベルを指定します。圧縮が高いと、バックアップが完了するまでの時間が長くなります。圧縮が低いと、バックアップファイルのサイズが大きくな

圧縮

ります。圧縮の設定は、**フォルダとボリュームのバックアップ**の両方に影響します。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ] > **[インストール/削除]** 『40 ページ』 ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

圧縮レートのサンプル

以下のテーブルは、一般的な Windows XP システムドライブ (C:) のオフィスおよび他に予想されるアプリケーションの場合の時間、削減およびサイズを示しています。これらの数字は単なるガイドであり、データのタイプが違えば大きく異なります。MP3 やその他の圧縮が高いファイルはあまり圧縮されませんが、テキストや他の未圧縮のデータはより圧縮されます。

バックアップのタイプ	元	なし	通常	高	最大
サイズ(GB)	8.78	8.78	6.29	5.74	5.64
% 削減 (%)	0	0	28.36	34.62	35.76
時間(mm:ss)	00:00	19:55	16:21	28:41	43:55

設定

設定 をクリックして、選択したマシン ID に圧縮オプションを指定します。

(圧縮オプション)

- なし
- 通常 - デフォルト
- 高
- 最大

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択 のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除** のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
-  エージェントが現在オフライン
-  エージェントが今までチェックインしたことがない
-  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
-  エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。[リモートコントロール]>[マシンをコントロール]ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム]>[ユーザーセキュリティ]>[スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

圧縮

各マシン ID に指定される圧縮オプション

最大ファイルサイズ

[バックアップ]>[最大ファイルサイズ]

最大ファイルサイズページは、イメージファイルの最大ファイルサイズを指定します。バックアップを実行すると、イメージファイルが作成されます。このオプションで指定するサイズが、それぞれのイメージファイルの最大サイズになります。たとえば、10 GB のデータを含むボリュームを実行するように設定されています。フルバックアップ用に作成されるイメージは、5 GB になります。最大ファイルサイズが 600 MB に設定されているなら、システムは 9 ファイルを作成し、8 ファイルが 600MB で 1 ファイルは残りのデータです。

- **NTFS** - 無制限のファイルサイズがサポートされるのは、NTFS フォーマットのディスクだけです。
- **FAT32** - FAT32-フォーマットのストレージデバイスは 2000MB までの最大ファイルサイズしかサポートしません。2000MB より大きい最大ファイルサイズを設定すると、FAT32-フォーマットのストレージデバイスに 2000MB のファイルが作成されます。
- **NTFS および FAT32** - 可能な最小ファイルサイズは 200MB です。
- **CD または DVD** - メディアに適切なファイルサイズを選択します。
- **ボリュームバックアップ** - バックアップクライアントのすべてのバージョンでサポートされません。
- **フォルダバックアップ** - バックアップクライアント 9.5 またはそれ以降が必要です。
- **合成フル** - サポートしていません。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[バックアップ]>[インストール/削除]『40 ページ』ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

設定

設定をクリックして、選択したマシン ID に**最大ファイルサイズ**を指定します。

無制限ファイルサイズ/最大ファイルサイズ<N< MB

無制限ファイルサイズを選択するか、イメージファイルで可能な最大ファイルサイズをメガバイト単位で入力します。

最大ログページ

すべて選択/すべて選択解除

[すべて選択](#)のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。[すべて選択解除](#)のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
-  エージェントが現在オフライン
-  エージェントが今までチェックインしたことがない
-  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
-  エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。[\[リモートコントロール\]](#) > [\[マシンをコントロール\]](#) ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[\[システム\]](#) > [\[ユーザーセキュリティ\]](#) > [\[スコープ\]](#)を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

最大サイズ

各マシン ID に指定される最大ファイルサイズです。

最大ログページ

[\[バックアップ\]](#) > [\[ログの最大保持期間\]](#)

最大ログページページは、バックアップのログデータを保持する日数を指定します。指定した最大値より古いエントリは自動的に削除されます。

バックアップ操作を実行する度に、各マシンのログが作成されます。ログには、実行するバックアップ操作の日付、タイプ、期間、結果、および説明を含みます。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。マシン ID をこのページに表示するには、[\[バックアップ\]](#) > [\[インストール/削除\]](#) 『40 ページ』 ページを使用して、マシン ID が示す管理マシンにバックアップソフトウェアをインストールする必要があります。

設定

設定 をクリックして、選択したマシン ID のログ日の最大数を指定します。

<N<日

バックアップのためのログ日の最大数を入力します。

アーカイブ

チェックすると、バックアップログがアーカイブされます。アーカイブ場所を指定するには、[システム]>[構成]『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#248.htm>』を見て』を使用します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
-  エージェントが現在オフライン
-  エージェントが今までチェックインしたことがない
-  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
-  エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されません。[リモートコントロール]>[マシンをコントロール]ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム]>[ユーザーセキュリティ]>[スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

最大エージ

各マシン ID に割り当てられたログ日の最大数

安全なゾーン

[バックアップ] > [安全なゾーン]

Backup 4.0 より前のバージョンがインストールされたバックアップクライアントの場合、[安全なゾーン]ページでは、管理マシンに 56MB の非表示のブートパーティションをインストールします。これらの古いバックアップクライアントについては、**自動リカバリ**『26 ページ』が安全なゾーンを使用して、管理マシンをブートし、ユーザーの介入なしでバックアップボリュームのイメージを復

安全なゾーン

元します。保護ゾーンのインストールまたは削除は、マシンのリブートを必要とします。

安全ゾーンなしの自動復元: Acronis ABR10 および ABR11 で自動リカバリ 『26 ページ』を実行するために、安全なゾーン 『57 ページ』は不要です。バックアップクライアントの ABR10 および ABR11 バージョンがインストールされたすべてのマシンが、[自動リカバリ]ページに表示されます。[安全なゾーン]ページでは、バックアップクライアントの ABR10 および ABR11 バージョンを使用して、安全なゾーンをマシンにインストールすることができなくなりました。ABR10 より前のバージョンのバックアップクライアントを使用しているマシンには、まだ安全なゾーンが必要です。

インストール

インストールをクリックして、選択したマシンに保護ゾーンパーティションを作成します。保護ゾーンをインストールすると**選択したマシンがリブートされます**。

削除する

削除をクリックして、選択したマシンから保護ゾーンをアンインストールします。保護ゾーンを削除すると**選択したマシンがリブートされます**。

キャンセル

キャンセルをクリックして、保留タスクをクリアします。

確認する

確認をクリックして、誰かが管理されるマシンのバックアップインストールを削除したことが疑われる場合に確認します。

パーティションを表示する。

チェックすると、管理されるマシンのディスクドライブとパーティションをリストアップします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。

-  オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
-  エージェントがオンライン
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
-  エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
-  エージェントが現在オフライン
-  エージェントが今までチェックインしたことがない
-  エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
-  エージェントが延期された

注： このアドオンモジュールが 5.x VSA にインストールされた場合、別のアイコンイメージが表示されます。[リモートコントロール]>[マシンをコントロール]ページには、VSA システムで使用されている特定のアイコンの凡例が表示されます。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム]>[ユーザーセキュリティ]>[スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

安全なゾーン

チェックすると、管理されるマシンに保護ゾーンがインストールされます。

インデックス

B

Backup モジュールの要件 - 12

C

CD リカバリ - 29

K

Kaseya Backup Local UI - 7
Kaseya Server のバックアップ - 6

O

Offsite Replication - 7
Offsite サーバー - 31
Offsite 警報 - 36

U

Universal Restore - 30

あ

イメージから VM - 25
イメージのパスワード - 46
イメージの確認 - 24
イメージの場所 - 44
インストール/削除 : バックアップ - 40

さ

スケジュールのフォルダ - 18
スケジュールのボリューム - 13

た

ダイナミックディスク - 5

は

パーティションのバックアップ - 4
バックアップステータス - 12
バックアップセット - 21
バックアップの確認 - 5
バックアップフォルダ構造 - 6
バックアップログ - 22
バックアップ概略 - 1
バックアップ警報 - 49
フォルダの検索 - 23
フォルダバックアップ - 48
フルバックアップ、増分、差分バックアップ - 4
ボリュームの検索 - 22
ボリュームバックアップ対フォルダバックアップ - 4

ら

ローカルサーバー - 33

漢字

圧縮 - 53
安全なゾーン - 57
合成フルバックアップ - 10
最大ファイルサイズ - 55
最大ログエージ - 56
事前/事後手順 : バックアップ - 16
自動リカバリ - 26
他のバックアップ製品のアンインストール - 3
転送をスケジュールする - 39
非表示のプリファレンス - 11
不良を復元 - 28